

# 公 民

## (現代社会)

発 行 者 の 番 号 略 称	教 科 書 の 記 号 番 号	判 型	総ページ数	検 定 済 年
17 教出	現社304	B5	192	平成24年
2 東書	現社313	B5	230	平成28年
7 実教	現社314	A5	310	
7 実教	現社315	B5	222	
35 清水	現社316	B5	222	
35 清水	現社317	A5	322	
46 帝国	現社318	B5	230	
104 数研	現社319	A5	326	
104 数研	現社320	B5	230	
183 第一	現社321	A5	318	
183 第一	現社322	B5	216	
81 山川	現社323	B5	198	平成29年

※総ページ数は、目録に記載されている数

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

現代社会						冊数	1 2冊
発行者の略称・ 教科書の番号	教出304	東書313	実教314	実教315	清水316	清水317	
	帝国318	数研319	数研320	第一321	第一322	山川323	

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【公民の目標】

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

### 【現代社会の目標】

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

### 【現代社会の内容及び内容の取扱い】

「内容」の概要	「内容の取扱い」の概要
(1) 私たちの生きる社会	(2)
(2) 現代社会と人間としての在り方生き方	ア 内容の(1)については、次の事項に留意すること。
ア 青年期と自己の形成	(ア) 内容の(1)は、この科目の導入として位置付けること。
イ 現代の民主政治と政治参加の意義	(イ) 「現代社会における諸課題」としては、生命、情報、環境などを扱うこと。
ウ 個人の尊重と法の支配	イ 内容の(2)については、次の事項に留意すること。
エ 現代の経済社会と経済活動の在り方	(ア) 項目ごとに課題を設定し、内容の(1)で取り上げた幸福、正義、公正などを用いて考察させること。
オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割	(イ) アの「生涯における青年期の意義」と「自己形成の課題」については、生涯にわたる学習の意義についても考察させること。
(3) 共に生きる社会を目指して	(ウ) イについては、地方自治に触れながら政治と生活との関連について認識を深めさせること。
	(エ) ウについては、法に関する基本的な見方や考え方を身に付けさせるとともに裁判員制度についても扱うこと。
	(オ) エの「市場経済の機能と限界」については、経済活動を支える私法に関する基本的な考え方についても触れること。
	(カ) オの「人種・民族問題」については、文化や宗教の多様性についても触れ、それぞれの固有の文化などを尊重する寛容の態度を養うこと。
	ウ 内容の(3)については、この科目のまとめとして位置付け、内容の(1)及び(2)で学習した成果を活用させること。

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 「私たちの生きる社会」のページ数及び全体に占める割合	内容の取扱い(2)ア	ページ、%
b 「現代社会と人間としての在り方生き方」のうち各中項目それぞれのページ数及び全体に占める割合	内容の取扱い(2)イ	ページ、%
c 「共に生きる社会を目指して」のページ数及び全体に占める割合	内容の取扱い(2)ウ	ページ、%
d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマの総数	内容の取扱い(2)ア(イ)	個
e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習テーマの総数	内容の取扱い(1)エ	個
f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマの総数	内容の取扱い(2)ウ	個

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名

e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名

f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名

g 発展的な内容の概要

<その他>

\* 我が国の領域をめぐる問題の扱い

\* 国旗・国歌の扱い

（調査の結果、記載のないことを確認した。）

\* 北朝鮮による拉致問題の扱い

\* 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い

\* 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い

\* オリンピック、パラリンピックの扱い

###### ② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

・ 学習指導要領に定められた「内容」及び「内容の取扱い」において、「的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公平なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図ること。」「生徒が自己の生き方にかかわって主体的に考察できるよう学習指導の展開を工夫すること。」と示されているため、d、e及びfについて調査する。

・ 学習指導要領に、内容の範囲や程度等を示す事項は、当該科目を履修する全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲を示したものであり、学校において必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができるため、発展的な内容を取り上げている箇所について調査する。

\* 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌については、学習指導要領総則に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。

\* 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。

\* 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や、自然災害時における関係機関の

役割等の扱いについて調査する。

- \* 学習指導要領に基づき、環境に係る諸問題を考察させることを通して、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱いについて調査する。
- \* 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

**(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）**

- ① コラム・資料・トピックスの扱い方
- ② 視覚的資料（写真、図・イラスト、グラフ、表など）
- ③ ゴシック等の用語
- ④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」 【(1) 内容 ア 調査研究の総括表】 (現代社会)

調査項目			a		b										c		d	e	f	個 (全体のページ数)
			ページ	%	青年期と自己の形成		現代の民主政治と政治参加の意義		個人の尊重と法の支配		現代の経済社会と経済活動の在り方		国際社会の動向と日本の果たすべき役割		ページ	%	個	個	個	
発行	教科書番号	教科書名	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	個	個	個	
教出	304	最新 現代社会	26	13.1	18	9.1	18	9.1	20	10.1	38	19.2	36	18.2	20	10.1	17	20	4	198
東書	313	現代社会	26	11.3	27	11.7	42	18.3	10	4.3	44	19.1	39	17.0	7	3.0	21	29	18	230
実教	314	高校現代社会 新訂版	30	9.7	43	13.9	56	18.1	22	7.1	72	23.2	56	18.1	4	1.3	28	14	9	310
実教	315	最新現代社会 新訂版	30	13.5	31	14.0	34	15.3	10	4.5	52	23.4	38	17.1	2	0.9	26	18	5	222
清水	316	高等学校 現代社会 新訂版	22	9.9	25	11.3	40	18.0	18	8.1	38	17.1	35	15.8	13	5.9	24	15	5	222
清水	317	高等学校 新現代社会 新訂版	34	10.6	50	15.5	67	20.8	12	3.7	61	18.9	56	17.4	9	2.8	34	5	8	322
帝国	318	高等学校 新現代社会	30	13.0	27	11.7	32	13.9	22	9.6	46	20.0	35	15.2	12	5.2	28	9	1	230
数研	319	改訂版 現代社会	37	11.3	43	13.2	34	10.4	48	14.7	86	26.4	33	10.1	4	1.2	31	5	6	326
数研	320	改訂版 高等学校 現代社会	34	14.8	29	12.6	34	14.8	12	5.2	46	20.0	37	16.1	13	5.7	26	14	5	230
第一	321	高等学校 改訂版 現代社会	32	10.1	15	4.7	58	18.2	16	5.0	66	20.8	56	17.6	10	3.1	23	5	9	318
第一	322	高等学校 改訂版 新現代社会	22	10.2	14	6.5	34	15.7	10	4.6	46	21.3	38	17.6	6	2.8	19	15	13	216
山川	323	現代社会 改訂版	22	11.1	22	11.1	28	14.1	18	9.1	44	22.2	29	14.6	10	5.1	23	8	8	198
平均値			28.8	11.4	28.7	11.4	39.8	15.8	18.2	7.2	53.3	21.1	40.7	16.1	9.2	3.6	25.0	13.1	7.6	

・全体のページ数は、見返しと裏見返し等を含めている。  
 ・a、b及びcは、該当項目のページ数と全体のページ数に対する割合を小数第2位で四捨五入した値である。  
 ・d、e及びfは、該当するテーマについて、その個数を数えた。

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<p>○生命について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紅茶カップにおさまるイヌ</li> <li>・イヌと人間</li> <li>・小型化を阻止!?</li> <li>・虚弱なイヌの増加</li> <li>・人とイヌのあり方</li> <li>・人間の未来は!?</li> </ul> <p>○情報化のもたらすもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代の情報伝達</li> <li>・情報技術の進化</li> <li>・情報化のもたらす真実</li> <li>・情報化の影</li> <li>・経済的な自立を支える情報</li> <li>・よりよい未来のために</li> </ul> <p>○「自然」と「人間」との対話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沈黙の春</li> <li>・ホッキョクグマの憂鬱</li> <li>・地球規模の環境問題</li> <li>・自然と人間が共生する社会</li> <li>・自然と人間との対話</li> </ul> <p style="text-align: right;">(17)</p>	<p>○【スキルを磨く】</p> <p>(I 課題設定のコツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を見つけよう</li> <li>・仮説を立てよう</li> </ul> <p>(II 資料集めのコツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の図書館は資料の宝庫</li> <li>・インターネット活用術</li> <li>・関係する機関などを訪問してみよう</li> </ul> <p>(III レポート作成のコツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの設計図を描こう</li> <li>・資料を整理して肉づけしていこう</li> <li>・自分の言葉でまとめよう</li> </ul> <p>(IV ディベートの秘訣)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートをやってみよう</li> <li>・ディベートの進行の項目と時間(例)</li> <li>・審判の判定</li> </ul> <p>(V プレゼンテーションの秘訣)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションをやってみよう</li> <li>・プレゼンテーションの準備</li> <li>・ストーリーをつくろう</li> <li>・資料づくり</li> <li>・表現方法を工夫しよう</li> </ul> <p>(VI 小論文を書く秘訣)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文とは</li> <li>・小論文のパターン</li> <li>・構成メモをつくろう</li> <li>・臓器移植をテーマにした小論文に挑もう</li> </ul> <p style="text-align: right;">(20)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人と社会1 「社会起業」という生き方</li> <li>・個人と社会2 人間らしく働くことができる社会へ</li> <li>・社会と社会 「苦い」コーヒー</li> <li>・現在世代と将来世代 「世代間の対話」と持続可能な発展</li> </ul> <p style="text-align: right;">(4)</p>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<p>○地球環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・酸性雨</li> <li>・森林の減少と砂漠化</li> <li>・生物多様性の維持とその他の取り組み</li> <li>・国際協力の動向と日本の取り組み</li> <li>・持続可能な開発に向けての課題</li> </ul> <p>○資源・エネルギー問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源・エネルギー問題</li> <li>・エネルギー利用とその変化</li> <li>・原子力発電の動向と課題</li> <li>・再生可能エネルギーの普及に向けて</li> <li>・低炭素社会の実現のために</li> </ul> <p>○科学技術の発達と生命</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療技術の発達と生命倫理</li> <li>・脳死と臓器移植</li> <li>・再生医療の進歩</li> <li>・バイオテクノロジーの進歩と生命操作</li> <li>・遺伝子組み換え作物</li> </ul> <p>○情報化の進展と生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化社会への歩み</li> <li>・情報化の進展と社会の変化</li> <li>・情報化社会の危険性</li> <li>・情報化社会の未来</li> </ul>	<p>○課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究の流れ</li> <li>・課題を設定する</li> <li>・研究計画をたてる</li> </ul> <p>○調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報さがしの方法</li> <li>・図書館の活用</li> <li>・インターネットの活用</li> <li>・取材の方法</li> <li>・統計・図表の読み方</li> </ul> <p>○まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成の手順</li> <li>・レポートのまとめ方の工夫</li> <li>・見直しと推敲のポイント</li> <li>・著作権と引用</li> </ul> <p>○発表する／討論する</p> <p>プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションとは</li> <li>・プレゼンテーションの準備と工夫</li> <li>・構成と資料・原稿の作成</li> <li>・リハーサル</li> <li>・本番</li> </ul> <p>ロールプレイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイのしかた</li> <li>・演技の方法</li> <li>・場面設定例</li> </ul> <p>ディベート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートのルール</li> <li>・事前の準備</li> <li>・論題の決め方</li> <li>・ディベートの論題例</li> <li>・ディベートの進め方</li> </ul> <p>○小論文とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文とは</li> <li>・小論文のタイプ</li> <li>・書き方の手順</li> <li>・小論文作成のポイント</li> </ul>	<p>○若者の労働環境をどう改善するか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者を取りまく労働環境</li> <li>・フリーター、ニートの雇用環境</li> <li>・社会問題としての視点</li> </ul> <p>○混雑や渋滞はどうしたら回避できるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混雑と渋滞</li> <li>・個々人の行動の集積が引き起こすジレンマ</li> <li>・社会的ジレンマの解決に向けて</li> </ul> <p>○ゴミ処理場をどこに建設するか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ処理場の建設をめぐる</li> <li>・合意形成の難しさ</li> <li>・問題の解決に向けて</li> </ul> <p>○発展途上国の開発をうながす貿易のあり方は？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドーハ開発アジェンダ</li> <li>・農業交渉での対立点</li> <li>・求められる貿易の国際的なルールづくり</li> </ul> <p>○世代と世代の支えあいをどうするか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現役世代と高齢世代</li> <li>・現役世代と将来世代</li> <li>・世代間の結びつき</li> </ul> <p>○原子力発電の今後をどうするか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島第一原子力発電所事故の影響</li> <li>・放射性廃棄物の処理・処分にとまなう問題</li> <li>・未来のために</li> </ul>
(21)	(29)	(18)

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地球環境                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・酸性雨</li> <li>・森林破壊と野生生物種の絶滅</li> <li>・砂漠化の進行</li> </ul> </li> <li>○地球環境問題への取り組み                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な取り組み</li> <li>・持続可能な発展</li> <li>・温暖化防止への取り組み</li> <li>・Think Globally, Act Locally!</li> </ul> </li> <li>○資源・エネルギー・人口問題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・限りある資源</li> <li>・石油をめぐる問題</li> <li>・原子力発電</li> <li>・再生可能エネルギーの普及</li> <li>・エネルギーの有効な利用</li> <li>・人口爆発</li> <li>・食料問題</li> <li>・水資源問題</li> </ul> </li> <li>○現代の医学が問う生死のあり方                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命倫理</li> <li>・生命のはじまりへの介入</li> <li>・生命の終わりへの介入</li> <li>・望ましい介入のあり方とは</li> </ul> </li> <li>○生命科学の発展と倫理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳死と臓器移植</li> <li>・バイオテクノロジーの進歩</li> <li>・先端医療の倫理</li> </ul> </li> <li>○高度情報社会の現状と問題点                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化の進展</li> <li>・情報社会の問題点</li> <li>・情報社会における取り組み</li> <li>・情報社会における主体性</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">(28)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○study skills                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決める(調査する)</li> <li>・図書館で調べる</li> <li>・新聞で調べる</li> <li>・インターネットで調べる</li> <li>・現地で調べる(フィールドワーク)</li> <li>・情報をカードに書く</li> <li>・カードを整理する</li> <li>・カードを並べる</li> <li>・データを読み取る</li> <li>・発表の準備をする</li> <li>・全体の構成を考える</li> <li>・レジュメや資料を作る</li> <li>・多様な表現方法を工夫する</li> <li>・レポートにまとめてみよう</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">(14)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と自然の関係をあらわす2つの指標</li> <li>・国々の比較から浮かぶ社会間の関係</li> <li>・地球全体から見える世代間の関係</li> <li>・共に生きる社会をめざして</li> <li>・福祉の新しい形</li> <li>・排除から共生へ</li> <li>・感染症撲滅という世界的課題</li> <li>・特許の制限か保護か</li> <li>・事後の治療か事前の予防か</li> </ul> <p style="text-align: right;">(9)</p>



d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地球環境問題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・酸性雨の被害</li> <li>・森林の減少</li> <li>・砂漠化の進行</li> <li>・生物多様性の減少</li> <li>・国際的な取り組み</li> <li>・温暖化防止の取り組み</li> <li>・持続可能な社会をめざして</li> </ul> </li> <li>○資源・エネルギー問題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源の種類</li> <li>・資源をめぐる国際問題</li> <li>・エネルギーの大量消費からの転換</li> <li>・原子力発電とその課題</li> <li>・再生可能エネルギーの普及</li> <li>・人口爆発</li> <li>・食料問題</li> <li>・水資源の危機</li> <li>・資源の公正な分配と持続可能な利用</li> </ul> </li> <li>○生命科学と情報技術の課題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生殖医療をめぐる問題</li> <li>・尊厳ある死の迎え方とは</li> <li>・脳死と臓器移植</li> <li>・遺伝子解読は何をもたらすか</li> <li>・バイオテクノロジーをめぐる課題</li> </ul> </li> <li>○高度情報化社会と情報倫理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化の進展</li> <li>・情報化社会の課題</li> <li>・情報化時代を生きる</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">(26)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分をデザインするキャリアデザイン</li> <li>○求人票を見てみよう</li> <li>○for study                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決める(調査する)</li> <li>・図書館で調べる</li> <li>・新聞で調べる</li> <li>・インターネットで調べる</li> <li>・現地で調べる(フィールドワーク)</li> <li>・情報をカードに書く</li> <li>・カードを整理する</li> <li>・カードを並べる</li> <li>・レポートを書く(発表する(プレゼンテーション))</li> <li>・条件を確認する</li> <li>・プログラムを作成する</li> <li>・話し方を工夫する</li> <li>・表現方法を工夫する(ディベートをする)</li> <li>・論題を決める</li> <li>・役割にわかれ、準備をする</li> <li>・ディベートをおこなう</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">(18)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権の保護と発展途上国</li> <li>・公正な国際貿易体制を求めて</li> <li>・自由とルール</li> <li>・世代間の共生</li> <li>・格差と貧困の解消</li> </ul> <p style="text-align: right;">(5)</p>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地球環境</li> <li>・地球温暖化</li> <li>・排出量取引を考える</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・酸性雨</li> <li>・砂漠化と熱帯雨林の破壊</li> <li>・生物多様性を守るために</li> <li>・資源・エネルギー問題</li> <li>・原子力発電と課題</li> <li>・再生可能エネルギーの普及と課題</li> <li>・グリーンイノベーションの推進</li> <li>・地球の有限性一かけがえのない地球</li> <li>○生命</li> <li>・生命科学と倫理</li> <li>・生殖医療技術</li> <li>・クローン技術の研究一生命の尊厳か、食料の増産か</li> <li>・患者の権利一自己決定権とは</li> <li>・脳死と臓器移植一公正な医療資源の配分とは</li> <li>・人間の尊厳一生老病死に思いをめぐらして</li> <li>○情報</li> <li>・現代社会と情報化</li> <li>・高度情報社会</li> <li>・高度情報社会の問題</li> <li>・犯罪とその対策</li> <li>・高度情報社会の権利と法律</li> <li>・情報格差</li> <li>・メディア社会を生きていくために</li> </ul> <p style="text-align: right;">(24)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ランキングで考えてみよう</li> <li>・ランキングの方法</li> <li>・ランキングシート</li> <li>・選択肢カード</li> <li>・ランキングで考えるメリット</li> <li>・ランキングを行うときの注意点</li> <li>○小論文を書いてみよう</li> <li>・小論文を書く上での考え方</li> <li>・図書館で本を探す</li> <li>・インターネットを活用する</li> <li>・新聞や雑誌を探す</li> <li>・統計資料や映像資料を活用する</li> <li>○企業の決算書類をみてみよう</li> <li>・企業の決算書類をみてみよう</li> <li>・貸借対照表</li> <li>・損益計算書</li> <li>・『会社四季報』をみてみよう</li> <li>○構想図を書いてみよう</li> <li>・構想図の書き方と書く上での考え方</li> </ul> <p style="text-align: right;">(15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南北問題の背景と経済格差</li> <li>・南北問題の解決に向けた世界の動き</li> <li>・国の財政と私たちの生活</li> <li>・さまざまな臓器移植</li> <li>・臓器移植法の改正と問われる「人の死」</li> </ul> <p style="text-align: right;">(5)</p>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<p>○地球環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙船地球号のゆくえ</li> <li>・森林破壊</li> <li>・酸性雨</li> <li>・砂漠化</li> <li>・野生動植物種の減少と遺伝資源の保全</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・有害廃棄物の投棄</li> <li>・地球温暖化の影響</li> <li>・地球温暖化への国際社会の対応</li> <li>・ポスト京都議定書にむけて</li> <li>・国際社会の取り組みの歴史</li> <li>・地球環境問題と私たちの生活や行動</li> </ul> <p>○資源・エネルギー問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化石燃料の消費増大</li> <li>・石油をめぐる歴史</li> <li>・原子力発電の導入とその問題</li> <li>・再生可能エネルギーの導入をめざして</li> <li>・世界の人口</li> <li>・世界の食料や水資源</li> </ul> <p>○科学技術と生命倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオの時代</li> <li>・生命倫理の諸課題</li> <li>・遺伝子差別の懸念</li> <li>・親子の概念が揺らぐ？</li> <li>・再生医療の可能性</li> <li>・見えなくなる死</li> <li>・QOLとSOL</li> <li>・脳死と臓器移植</li> <li>・自己決定だけでよいのか</li> <li>・人体が資源化・商品化する？</li> <li>・私たちが目指す未来とは</li> </ul> <p>○情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度情報化社会の出現</li> <li>・情報通信技術の社会的影響</li> <li>・情報通信とマスコミュニケーション</li> <li>・情報化社会における個人情報</li> <li>・情報倫理と知識の創造</li> </ul> <p style="text-align: right;">(34)</p>	<p>○学んだことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を決める 何をテーマに？</li> <li>・計画をたてる</li> <li>・計画実施</li> <li>・成果をまとめる</li> <li>・結果を知らせる</li> </ul> <p style="text-align: right;">(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の便益と社会の要請</li> <li>・誰が便益を享受するか</li> <li>・個人と社会の対立</li> <li>・先進国と途上国 環境保全と経済成長</li> <li>・温室効果ガスの排出削減をめざして 公正・正義・幸福</li> <li>・「現在世代」と「将来世代」</li> <li>・社会保障で考える、「現在世代」と「将来世代」の世代間公平の問題</li> <li>・「少子高齢化」が進むと年金はどうなるか？クイズで考えよう！</li> </ul> <p style="text-align: right;">(8)</p>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<p>○環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の営みと環境問題</li> <li>・地球規模の気候変動</li> <li>・熱帯林の減少と砂漠化</li> <li>・大気汚染と酸性雨</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・生物の多様性とその保全</li> <li>・環境問題と国際会議</li> <li>・気候変動をめぐる条約</li> </ul> <p>○人口・資源・エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人口動態と人口問題</li> <li>・食料をめぐる問題</li> <li>・水資源をめぐる問題</li> <li>・エネルギー資源の種類と有限性</li> <li>・増えるエネルギー消費</li> <li>・原子力エネルギーの現状と課題</li> <li>・低炭素社会の実現に向けて</li> <li>・循環型社会の実現に向けて</li> <li>・私たちの生活を見直そう</li> </ul> <p>○生命</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命誕生への介入</li> <li>・生命誕生に介入することの課題</li> <li>・遺伝子技術の活用</li> <li>・遺伝子技術の課題</li> <li>・変わる死の定義</li> <li>・再生医療の可能性</li> <li>・高度な医療が進むなかで</li> <li>・生命倫理をどう考えるか</li> </ul> <p>○情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化が進む現代社会</li> <li>・情報化がもたらしたもの</li> <li>・情報化への対応</li> </ul> <p style="text-align: right;">(28)</p>	<p>【身につけたい力】</p> <p>○課題追究学習の手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題追究学習の流れと「身につけたい四つの力」</li> <li>・「身につけたい四つの力」と「七つのスキル」</li> </ul> <p>(①課題を設定する力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「カードの作成」～教科書からキーワードを選び出そう～</li> <li>・「カードの分類」～カードを整理し、課題を見つけよう～</li> </ul> <p>(②資料を読む力・図表をつくる力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「統計と図表の読み取り」～情報を正しく読み取ろう～</li> <li>・「図表の作成」～統計からグラフなどをつくろう～</li> </ul> <p>(③主張をまとめる力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ロールプレイ」～ロールプレイで主張をまとめよう～</li> </ul> <p>(④レポートを書く力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「構成ノート」による文章化～レポートをつくろう～</li> <li>・「推敲」～チェックリストで文章を見直そう～</li> </ul> <p style="text-align: right;">(9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会の形成</li> </ul> <p>○日本の外国人労働者の受け入れについて</p> <p style="text-align: right;">(1)</p>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地球環境問題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちの生活と生態系</li> <li>・ 生物多様性の危機と環境倫理</li> <li>・ 自然環境や生態系を守る条約や取り組み</li> <li>・ 地球温暖化の進行</li> <li>・ オゾン層破壊</li> <li>・ 酸性雨</li> <li>・ 森林破壊</li> <li>・ 砂漠化</li> <li>・ 地球環境問題への国際的な取り組み</li> <li>・ 先進国と発展途上国の責任と役割</li> </ul> </li> <li>○資源・エネルギー問題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 循環型社会の形成</li> <li>・ エネルギー消費の動向</li> <li>・ 低炭素社会のための政策課題</li> <li>・ 原子力発電の現状と課題</li> <li>・ 再生可能エネルギー</li> <li>・ 食料問題</li> <li>・ 水問題</li> </ul> </li> <li>○科学技術の発達と生命                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療技術の発達</li> <li>・ 生命倫理の重要性</li> <li>・ 遺伝子組み換え技術の発達</li> <li>・ クローン技術の発達</li> <li>・ 生殖補助医療の進展</li> <li>・ ES細胞・iPS細胞の研究開発</li> <li>・ 脳死と臓器移植法</li> <li>・ 生命の尊厳と生活や生命の質</li> </ul> </li> <li>○高度情報化社会と生活                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちと情報化社会</li> <li>・ 情報倫理と情報リテラシー</li> <li>・ サイバー犯罪と情報セキュリティ</li> <li>・ 個人情報の保護</li> <li>・ 知的財産権の保護</li> <li>・ デジタル・デバイドの是正</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">(31)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題探究・研究の手引き                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題 (=研究テーマ) を設定しよう</li> <li>・ 研究計画を立てよう</li> <li>・ 研究成果をまとめよう</li> <li>・ 社会に発信しようープレゼンテーションー</li> <li>・ 討論してみようーディベートー</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題探究                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「持続可能な開発」とは</li> <li>・ 持続可能な開発のための教育の10年</li> <li>・ 「持続可能な社会」を作るためには</li> <li>・ 個人と社会の関係</li> <li>・ 社会と社会の関係</li> <li>・ 世代間の公正</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">(6)</p>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<p>○地球環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系と生物多様性を守るために</li> <li>・地球温暖化</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・酸性雨</li> <li>・森林破壊</li> <li>・砂漠化</li> <li>・地球環境問題への国際的取り組み</li> <li>・京都議定書と京都メカニズム</li> <li>・持続可能な開発と世代間倫理</li> </ul> <p>○資源・エネルギー問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー革命と石油危機</li> <li>・原子力発電の現状と課題</li> <li>・再生可能エネルギーの普及</li> <li>・循環型社会形成推進基本法</li> <li>・レアメタルの安定供給</li> </ul> <p>○生命をめぐる問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生殖補助技術の進展</li> <li>・脳死と臓器移植法</li> <li>・生命の尊厳と生活や生命の質</li> <li>・遺伝子組み換え技術の発達</li> <li>・クローン技術の発達</li> <li>・遺伝情報の解析</li> </ul> <p>○情報をめぐる問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信技術の発達</li> <li>・サイバー犯罪と情報セキュリティ</li> <li>・情報操作の危険性と情報リテラシー</li> <li>・デジタル・デバイドの是正</li> <li>・知的財産権の保護</li> <li>・個人情報の保護</li> </ul> <p style="text-align: right;">(26)</p>	<p>○課題を発見しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題とは何か</li> <li>・問題の種類</li> <li>・問題を解決することの意味</li> <li>・情報の入手法～課題を発見するために～</li> </ul> <p>○課題を設定しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題(研究テーマ)を設定する</li> <li>・研究計画を立てる</li> <li>・問題の本質を見きわめる</li> </ul> <p>○情報を収集しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献での調査</li> <li>・実地調査(現地取材)</li> <li>・統計資料の見かた</li> </ul> <p>○研究成果をまとめて社会へ発信しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果をまとめる</li> <li>・社会へ発信する</li> </ul> <p>○討論してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベート</li> <li>・ロールプレイ</li> </ul> <p style="text-align: right;">(14)</p>	<p>○課題探求の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「持続可能な開発」とは何だろう</li> <li>・ESDとは何だろう</li> <li>・個人と社会の関係</li> <li>・社会と社会の関係</li> <li>・世代間の公正</li> </ul> <p style="text-align: right;">(5)</p>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<p>○地球環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化</li> <li>・酸性雨</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・森林の破壊と野生生物の種の減少</li> <li>・進行する砂漠化</li> <li>・海洋汚染</li> <li>・環境問題への国際的な取り組み</li> <li>・地球温暖化の防止に向けた取り組み</li> <li>・将来世代に受け渡したい環境</li> </ul> <p>○資源・エネルギー問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限りある資源</li> <li>・エネルギー利用の変化と石油の需給</li> <li>・原子力発電とその課題</li> <li>・期待される新エネルギー</li> <li>・循環型社会に向けて</li> </ul> <p>○科学技術の発達と生命倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術と生命操作</li> <li>・臓器移植と再生医療の是非</li> <li>・尊厳死と安楽死</li> <li>・自己決定権と医療</li> <li>・生命倫理と新しい死生観</li> </ul> <p>○高度情報社会と私たちの生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度情報社会の発展</li> <li>・高度情報社会における利便性</li> <li>・高度情報社会における諸課題</li> <li>・高度情報社会への対応</li> </ul> <p style="text-align: right;">(23)</p>	<p>○テーマ設定と情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマの設定</li> <li>・情報収集</li> </ul> <p>○情報をまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなまとめ方</li> <li>・レポートでまとめる</li> <li>・小論文を書こう</li> </ul> <p style="text-align: right;">(5)</p>	<p>○税と社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1枚の給与明細書から</li> <li>・小さな政府と大きな政府</li> <li>・誰から、いくら徴収するか</li> </ul> <p>○東日本大震災後のエネルギー問題をめぐって</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー源をめぐる議論</li> <li>・原子力発電所の再稼動をめぐる問題</li> </ul> <p>○人口問題と私たちの未来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発展途上国における人口爆発</li> <li>・発展途上国の食料問題</li> <li>・人口問題と食料問題</li> <li>・人口問題を解決するために</li> </ul> <p style="text-align: right;">(9)</p>

d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名	e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名	f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名
<p>○環境と私たちの生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化</li> <li>・酸性雨</li> <li>・オゾン層の破壊</li> <li>・進む森林破壊と野生生物種の減少</li> <li>・進行する砂漠化</li> <li>・地球環境問題への国際的な取り組み</li> <li>・自然との共生をめざして</li> </ul> <p>○資源・エネルギー問題と私たちの生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限りある資源</li> <li>・エネルギー利用の変化と石油の需給</li> <li>・原子力発電とその課題</li> <li>・期待される新エネルギー</li> </ul> <p>○科学技術の発達と私たちの生命</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術の発達と生命の操作</li> <li>・遺伝子レベルの生命操作</li> <li>・先端医療技術の現状</li> <li>・現代の医療をめぐる議論</li> <li>・新しい生命倫理の確立に向けて</li> </ul> <p>○高度情報社会と私たちの生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度情報社会の到来</li> <li>・高度情報社会の恩恵</li> <li>・高度情報社会で生きるために</li> </ul> <p style="text-align: right;">(19)</p>	<p>○テーマの設定と情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマの設定</li> <li>・情報収集</li> </ul> <p>○情報を活用しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計グラフを活用する</li> <li>・情報の正しい受け取り方</li> </ul> <p>○情報をまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなまとめ方</li> <li>・レポートでまとめる</li> </ul> <p>○情報を発表しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディベート</li> <li>・評価とふり返し</li> </ul> <p>○小論文を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小論文と作文との違い</li> <li>・小論文の出題形式</li> <li>・要約のしかた</li> <li>・小論文を書く手順</li> <li>・志望理由書の書き方</li> <li>・評価のポイント</li> </ul> <p style="text-align: right;">(15)</p>	<p>○社会保障と消費税</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今、政府に求められているのは？</li> <li>・なぜ消費税の増税が叫ばれるのか？</li> <li>・なぜ消費税の増税について、賛否が分かれるのか？</li> <li>・個人の利益を重視するか？社会の利益を重視するか？</li> </ul> <p>○震災から復興への道のり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牡鹿半島鮎川</li> <li>・東日本大震災</li> <li>・「クジラのまち」再生への課題</li> </ul> <p>○人口問題と私たちの未来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口はどのくらい増えているの？</li> <li>・地域ごとの違い</li> <li>・なぜ多産なのだろうか？</li> <li>・食料は足りるのだろうか？</li> <li>・農業国なのに食料を輸入している</li> <li>・私たちにできること</li> </ul> <p style="text-align: right;">(13)</p>



<p>d 「現代社会における諸課題」で取り上げているテーマ名</p>	<p>e 統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法など学び方の習得に関連付けて取り上げた学習のテーマ名</p>	<p>f 「共に生きる社会を目指して」において課題を探究する活動として取り上げているテーマ名</p>
<p>○地球環境の危機 地球環境問題とはなにか 地球温暖化 ○さまざまな地球環境問題 オゾン層の破壊 酸性雨 その他の地球環境問題 ○問題解決への取り組み 世界規模の環境対策 将来世代への責任 ○今日の資源・エネルギー問題 資源の偏り エネルギー革命と原発 ○循環型社会の形成 新しいエネルギー 循環型社会への取り組み ○科学技術の発達と生命倫理 バイオテクノロジーの発展 遺伝子技術の発展 バイオテクノロジーの課題 ○生と死をめぐる問題 生殖医療 安楽死と尊厳死 リヴィング=ウィル ○脳死と臓器移植 脳死とはなにか 臓器移植をめぐる問題 ○高度情報社会の到来 高度情報社会とは 社会に与える影響 ○高度情報社会の課題 ネット社会の危険性 高度情報社会の課題</p> <p>(23)</p>	<p>(P177・P178) ○課題追究の方法と課題発表 ・テーマの設定 ・事実を知る ・最新のデータを知る ・インタビューをする ・アンケート調査をする ・レポートを書く ・プレゼンテーションをしてみよう ・ディベートをしてみよう</p> <p>(8)</p>	<p>・あなたが実現したい生き方は、どのようなものか。それは、個人としてどのような価値を実現するものであり、社会としてどのような価値を実現するものか。さらに、その実現に向けて乗り越えなければならない課題は何か。 ・個人として求める価値の実現を、個人が属する社会から求められる価値の実現より優先できるのは都市化地方か。また、その理由は何か。 ・個人が属する社会から求められる価値の実現を、個人として求める価値の実現より優先できるのは都市か地方か。また、その理由は何か。 ・第二次世界大戦後の日本経済の発展に、都市と地方はどのような役割を果たしてきたか。 ・第二次世界大戦後に日本経済が発展するなかで、都市と地方はどのような不均衡を見たか。 ・今日、都市と地方には、それぞれどのような課題があるのか。それを克服するためには、どのような手立てがあるか。 ・現役世代と将来世代の共生を実現するには、安定した社会保障や社会福祉の実現が必要である。その原資を確保するには、経済成長は欠かせない。日本経済を牽引するICTをはじめとする第二次・第三次産業の本社の多くは都市にあり、都市で生み出した付加価値を地方にも配分することで「持続可能な社会」ができあがる。 社会保障や社会福祉にはどれだけの費用がかかり、都市と地方とで負担をどのように分けあっているのか。さらに、将来の人口動態を考慮する時、都市はどのように付加価値を増大していけばいいのか。あるいは、地方で付加価値を生み出すとすればどのような手立てがあるのか。 ・現役世代と将来世代の共生を実現するには、人口の急減を回避する必要がある。人口急減を回避する手立ては、合計特殊出生率を上げることと、外国から人びとを受け入れることである。都市であろうと地方であろうと、若い人びとが安心して子供を産み、育てることができる環境を整備する必要は変わらない。また、外国からの人びとを受け入れる時に、かれらの生活を確保する産業基盤を確保する必要も共通である。ただ、それらの態勢を整えるに当たり、その費用に対して得られる効果を考えた時、都市と地方とではどちらが有利であろうか。具体的な提言とともに考えよう。</p> <p>(8)</p>

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	その他
教出	304	最新現代社会	(P.124 注記)(地図有) ・日本の固有の領土である北方領土と竹島は、それぞれロシアと大韓民国に占拠され、領土問題となっている。	(P.124 注記)(地図有) ・日本の固有の領土である北方領土と竹島は、それぞれロシアと大韓民国に占拠され、領土問題となっている。	(P.124 注記)(地図有) ・尖閣諸島も日本の固有の領土だが、中国政府や台湾当局が領有を主張している。  (P.131コラム) ・中国は、2010年には国内総生産(GDP)で日本を抜いて世界第二位の経済大国となったが、尖閣諸島の領有権を主張し、日本と鋭く対立している。
東書	313	現代社会	(P190コラム『日本の領域と領土問題』) ・日本固有の領土については、1945年にソ連に占領され、ソ連解体後もロシアが占拠している北方領土の問題があり、解決に向けた交渉がロシアとの間で続けられている。  (P190地図・写真)『日本の領域』	(P190コラム『日本の領域と領土問題』) ・1952年から韓国が占拠している竹島の問題については、日本は抗議を続けるとともに、国際司法裁判所に提訴して解決をはかろうとしている。  (P190地図・写真)『日本の領域』	(P190コラム『日本の領域と領土問題』) ・1971年から中国が領有を主張している尖閣諸島には、解決すべき領有権の問題はないというのが日本政府の見解である。  (P190地図・写真)『日本の領域』
実教	314	高校現代社会新訂版	(P161本文) ・日本政府の立場は以下のとおりである。北方領土については、サンフランシスコ平和条約において領有を放棄していないが、第二次世界大戦末期以来、ソ連(ロシア)が不法に占拠しているため、日本としてはこの問題を交渉により解決して、ロシアとの間で日ロ平和条約を締結することを望んでいる。  (P161地図)『日本の領域と排他的経済水域』 ・北方領土は、択捉島、国後島、色丹島および歯舞諸島からなる。日本は、ポーツマス条約(日露戦争の講和条約、1905年)で獲得した南樺太と千島列島をサンフランシスコ平和条約において放棄した。北方四島は、同条約において日本が放棄した千島列島に含まれないとするのが日本政府の立場である。ソ連はかつて日ソ共同宣言(1956年)において、日ソ(当時)間の平和条約締結後に歯舞、色丹を返還するとした(二島返還論)。	(P161本文) ・竹島(1905年の閣議決定により編入)については、サンフランシスコ平和条約において領有を放棄していない。しかし、韓国が不法占拠しているため、日本としては竹島の領有権問題を国際司法裁判所に付託することを提案しているが、韓国はこれに同意しない。  (P161地図)『日本の領域と排他的経済水域』	(P161本文) ・尖閣諸島(1895年の閣議決定によって編入)については、サンフランシスコ平和条約において領有を放棄していない。沖縄の一部として米国の施政権のもとに置かれたが、こんにちでは日本が実効支配している。施政権返還後、中国が領有権を主張するようになった。  (P161地図)『日本の領域と排他的経済水域』

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	その他
実教	315	最新現代社会 新訂版	<p>(P169本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家間で、特定の地域について互いに自国の領土であると主張が対立することを領土問題という。日本は、ロシアとの間で北方領土(国後島、択捉島、歯舞諸島、色丹島)、韓国との間で竹島の問題がある。日本政府は、日本固有の領土であるとする立場をとり、問題の平和的な解決に努めている。</li> </ul> <p>(P169側注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北方領土問題では、サンフランシスコ平和条約で日本が領土権を放棄した千島列島に、国後島と択捉島が入るかについて、日ソ間で条約の解釈が異なる。ロシアは、戦争中に当時のソ連と米英が署名したヤルタ協定で、千島列島がソ連に引き渡されることになっていたと主張する。一方、日本は、ヤルタ協定の当事国ではないため協定には拘束されないとし、両島は、日本「固有の領土」であり、放棄した千島列島には含まれないと主張する。</li> </ul> <p>(P169地図『日本の領域と排他的経済水域』)</p> <p>(P182コラム『国際交流を通じた平和の発展と北方領土問題』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北方領土の返還を求めて、日露両政府間で平和的交渉が続けている一方、両国の協力や交流もおこなわれている。</li> </ul> <p>(P182側注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の主権は回復されたが、沖縄の占領が継続される問題もあり、ソ連などの社会主義諸国は条約に調印しなかった(片面講和)。ソ連を継承したロシアとの平和条約は北方領土問題が解決していないため、未締結のままである。</li> </ul>	<p>(P169本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家間で、特定の地域について互いに自国の領土であると主張が対立することを領土問題という。日本は、ロシアとの間で北方領土(国後島、択捉島、歯舞諸島、色丹島)、韓国との間で竹島の問題がある。日本政府は、日本固有の領土であるとする立場をとり、問題の平和的な解決に努めている。</li> </ul> <p>(P169側注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本は、1905年の閣議決定で編入した竹島を、韓国が不法に占拠しているとして、この問題の国際司法裁判所への付託を提案したが、韓国はこれに応じていない。</li> </ul> <p>(P169地図『日本の領域と排他的経済水域』)</p>	<p>(P169地図『日本の領域と排他的経済水域』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国が領有権を主張している尖閣諸島は、日本が1895年の閣議決定によって編入した固有の領土であり、日本政府は、領土問題は存在しないとしている。</li> </ul>

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	その他
清水	316	高等学校 現代社会 新訂版	<p>(P169 コラム『領土をめぐる問題』)</p> <p>・歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島は、第二次世界大戦後、ソ連(現在はロシア)によって占領されている。1956年、日ソ共同宣言で両国は国交を回復し日本の国連加盟が承認された。共同宣言は平和条約(正式な戦争終結)締結後に歯舞群島・色丹島の引き渡しをうたったが、残り2島にはふれなかった。日本政府は4島が固有の領土であるとの理由からすべての返還を強く求めている。ロシア政府も4島の帰属問題を重視するが具体的な交渉にいたらず、現在も正式な平和条約は結ばれていない。</p> <p>(P169地図『北方領土』)</p>	<p>(P169 コラム『領土をめぐる問題』)</p> <p>・竹島については、日本は1905年に島根県に編入し、1951年のサンフランシスコ講和条約でも領有が確認されたとして、日本固有の領土としている。しかし1952年、韓国は竹島を取りこんだ沿岸水域の主権を主張し、1954年に警備隊を常駐させた。日本は国際法にのっとり、平和的な解決を求めている。</p>	<p>(P169 コラム『領土をめぐる問題』)</p> <p>・沖縄県の尖閣諸島に対しては、1970年代から、中国が領有権を主張するようになったが、日本政府は、尖閣諸島について「領有権問題は存在しない」との立場をとる。2012年、日本政府が個人所有の島を買い取り「国有化」したことを機に、中国公船による領海侵犯が頻発するなど、日中間の対立が表面化している。</p>
清水	317	高等学校 新現代社会 新訂版	<p>P201 (地図『日本の200海里線(左)と北方領土(右)』)</p> <p>・日ソ共同宣言以降も両国の首脳会談などで折衝し続けているが進展はみられない。</p>	<p>P201(地図『日本の200海里線(左)と北方領土(右)』)</p> <p>・政府は韓国が不法占拠しているとし、領有権を国際司法裁判所に付託することなどで解決をはかろうとしている。</p>	<p>P201(地図『日本の200海里線(左)と北方領土(右)』)</p> <p>・中国や台湾当局は沖縄県に属する尖閣諸島の領有権を主張しているが、日本政府は領有権問題はないとしている。2012年には尖閣諸島の一部を国有化した。</p>
帝国	318	高等学校 新現代社会	<p>(P180コラム『領土とは何か?』)</p> <p>1 領土はどうやって決まるのか</p> <p>・現在の日本政府が領土に関する他国との見解の衝突にのぞむ際には、上のような論拠に加えて、北方領土・竹島・尖閣諸島は歴史上、外国の領土となったことのない「固有の領土」であるという事情を根拠としてあげている。</p> <p>(P180地図)「日本の領域と排他的経済水域」</p> <p>(P180写真)「日本の北端 択捉島(北海道)」</p> <p>(P181コラム『領土とは何か?』)</p> <p>「2 北方領土をめぐる問題」</p> <p>・1951年のサンフランシスコ条約は、日本が朝鮮半島・台湾・ポンプ(澎湖)列島・千島列島・南樺太を放棄すると規定した。その後、ソ連との国交回復交渉の中で日本政府は、この条約でいう千島列島に国後島と択捉島は含まれないと主張し、この二島と同じく戦後ソ連の軍事占領下におかれていた色丹島と歯舞群島とともに、返還を要求することになった。これに対してソ連側は、日本との間に平和条約が結ばれたのちに色丹・歯舞群島を返還すると述べたが、国後・択捉については45年2月にアメリカ・イギリスとの間で結んだヤルタ協定で、すでに領有が認められていたと主張して譲らなかった。この姿勢はソ連が解体しロシアとなったのちも引き継がれ、四島(北方領土)の一括返還を求める日本政府との間で、主張の対立が続いている。</p> <p>(P181写真)「標津町から見える国後島(2011年)」</p> <p>(P181地図)「北方領土の歩み」</p>	<p>(P180コラム『領土とは何か?』)</p> <p>1 領土はどうやって決まるのか</p> <p>・現在の日本政府が領土に関する他国との見解の衝突にのぞむ際には、上のような論拠に加えて、北方領土・竹島・尖閣諸島は歴史上、外国の領土となったことのない「固有の領土」であるという事情を根拠としてあげている。</p> <p>(P180地図)「日本の領域と排他的経済水域」</p> <p>(P181コラム『領土とは何か?』)</p> <p>3 竹島をめぐる問題</p> <p>・日本海に浮かぶ島根県隠岐の島町の竹島は、江戸時代初期には米子の人々によって漁業がおこなわれており、1905年に改めて日本政府が内閣の決定により領有を宣言した。サンフランシスコ平和条約の作成過程でもその領有は認められたが、条約で明文化されることはなかった。これをみた韓国政府は、54年に武力によって竹島を占領し、1905年の領有宣言は朝鮮半島の植民地の一環であったから現在は無効だと唱えて、実効支配をつづけ、国際司法裁判所への共同提訴も拒否している。</p> <p>(P181写真)「竹島(2014年)」</p>	<p>(P180コラム『領土とは何か?』)</p> <p>1 領土はどうやって決まるのか</p> <p>・現在の日本政府が領土に関する他国との見解の衝突にのぞむ際には、上のような論拠に加えて、尖閣諸島は歴史上、外国の領土となったことのない「固有の領土」であるという事情を根拠としてあげている。</p> <p>(P180地図)「日本の領域と排他的経済水域」</p> <p>(P181コラム『領土とは何か?』)</p> <p>4 尖閣諸島をめぐる問題</p> <p>・沖縄県石垣市の尖閣諸島は、1895年に日本政府が領有を宣言し、大正時代にはかつおぶし工場を営む日本人が定住していた。また当時の清国も、のちの中華民国・中華人民共和国も異議を唱えなかった。しかし、1968年に行われた国際連合の調査によって、周辺の海底に石油や天然ガスなどの存在が指摘されると、70年代以降中国と台湾が領有権を主張し始めた。この領土に関して解決すべき領有権の問題はそもそも存在しないが、現在も軍用機や民間の漁船団が送り込まれるなど緊張が続いている。</p> <p>(P181写真)「尖閣諸島の南小島と北小島(2014年)」</p>

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	その他
数研	319	改訂版 現代社会	<p>(P192本文) ・ロシアとの間には、北方領土問題が未解決のまま残っており、交渉は進んでいない。</p> <p>(P192年表「北方領土問題のあゆみ」)</p> <p>(P193地図「日本の領土とそれをめぐる問題」) ・北海道の東に位置する択捉島・国後島・色丹島および歯舞群島。総面積は5,036km<sup>2</sup>。日本のポツダム宣言受諾後、ソ連が軍事占領した。日本は1855年の日露和親条約において日本領としている。1956年、日ソ共同宣言の締結によりソ連との国交を回復し、その際、ソ連は平和条約締結後に色丹島と歯舞群島を日本に引渡すことに同意したものの、まだ実現していない。</p>	<p>(P192本文) ・韓国が竹島(島根県)の領有を主張するという問題がある。</p> <p>(P193地図「日本の領土とそれをめぐる問題」) ・島根県の隠岐諸島の北西157km、韓国の鬱陵島の東南92kmにある大小二つの岩礁の島。島根県に属する。1952年のいわゆる「李承晩ライン」の設定以後、韓国による占拠が続いており、日本は平和的な解決に向けて努力を続けている。</p>	<p>(P192本文) ・中国政府・台湾当局が尖閣諸島(沖縄県)の領有を求めるという問題も起こっている。</p> <p>(P193地図「日本の領土とそれをめぐる問題」) ・南西諸島の西端に位置する島々の総称。沖縄県に属し、日本が有効に支配している。1960年代末に周辺海域の豊富な海底資源の存在が明らかになると、中国も領有権を主張するようになった。</p>
数研	320	改訂版 高等学校 現代社会	<p>(P175本文) ・ロシアとの間には北方領土問題が未解決のまま残っており、韓国が竹島(島根県)の領有を主張するなどの問題がある。</p> <p>(P176コラム『日本の領土をめぐる情勢』) ・日本は、いままロシアとの間に北方領土問題を抱えている。北方領土はロシアが実効支配しているが、日本政府は日本固有の領土であると主張している。 北方領土とは、北海道の東に位置する択捉島・国後島・色丹島・歯舞群島のこと、全体の総面積は5,036km<sup>2</sup>である。1945年の日本のポツダム宣言受諾後、ソビエト連邦(ソ連)が軍事占領した。1956年、日ソ共同宣言によりソ連と国交を回復し、平和条約が両国の間で結ばれれば色丹島と歯舞群島を日本に返還すると合意した。日本政府は、ソ連を継承したロシアとの間で平和条約締結交渉を行っているが、条約締結は実現していない。</p> <p>(P176年表「北方領土をめぐる動き」)</p> <p>(P176地図「北方領土」)</p>	<p>(P175本文) ・ロシアとの間には北方領土問題が未解決のまま残っており、韓国が竹島(島根県)の領有を主張するなどの問題がある。</p> <p>(P177コラム『日本の領土をめぐる情勢』) ・竹島は島根県の隠岐諸島の北西157kmに位置する二つの小島と数十の岩礁からなり、総面積は0.23km<sup>2</sup>である。 日本は、遅くとも17世紀半ばには竹島の領有権を確立していた。1904年、竹島周辺でアシカ猟をしていた隠岐島民が、日本政府に竹島の領土編入および賞賛請願をした。これを受けて政府は1905年1月の閣議決定によって竹島を島根県に編入し、国家による領有の意思を公的に示した。そして島根県知事は同年2月22日にその内容を告示したので、国際法上、領土取得の要件に合致している。 第二次世界大戦後、GHQは日本政府による沖縄や竹島の行政権を停止した。その後、サンフランシスコ平和条約では、日本が放棄すべき地域として「済州島、巨文島及び鬱陵島を含む朝鮮」と規定され、竹島が日本の領土であることが再確認された。 1952年1月、いわゆる「李承晩ライン」が韓国によって一方的に設定された。竹島はラインの韓国側に取り込まれ、韓国による占拠がそれ以降続いている。この問題の平和的手段による解決を図るため、日本は1954年9月、国際司法裁判所に付託することを韓国側に提案したが、韓国はこの提案を拒否した。その後、日本側による1962年3月および2012年8月の付託提案も拒否している。</p> <p>(P177地図「竹島と尖閣諸島の位置」)</p> <p>(P177写真「竹島(島根県)」)</p>	<p>(P177コラム)「日本の領土をめぐる情勢」 ・尖閣諸島をめぐる情勢 尖閣諸島は南西諸島の西端に位置する島々の総称で、総面積は6.3km<sup>2</sup>である。日本は1885年に領有を宣言した。1960年代末に周辺海域に豊富な海底資源があることが判明すると、中国や台湾も領有権を主張するようになった。1972年にアメリカから日本へ沖縄が返還された際に尖閣諸島も同時に返還されており、それ以来、日本が有効に支配している。</p> <p>(P177地図「竹島と尖閣諸島の位置」)</p> <p>(P177写真「尖閣諸島(沖縄県)」)</p>

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	その他
第一	321	高等学校改訂版現代社会	<p>(P151本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は、ロシアとの間に北方領土問題という大きな問題をかかえている。</li> </ul> <p>(P151地図「日本の領域および排他的経済水域」)</p> <p>(P152コラム「北方領土問題」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1951年のサンフランシスコ平和条約において、日本は千島列島および南樺太に関する全ての権利を放棄した。しかし、問題は、日本が平和条約で権利を放棄した千島列島の範囲である。日本政府は、国後島・択捉島は歴史的に日本固有の領土であり、また、根室半島の延長線上にある歯舞群島・色丹島についても北海道の一部であり、ロシアによる占領は違法であると主張している。</li> <li>・このような日本の主張に対して、ロシアは千島列島および南樺太に関する領土問題は解決済みであり、歯舞群島、色丹島の二島については、「日ソ間に平和条約が締結されたあとに現実に引き渡されるものとする」(1956年の日ソ共同宣言)という態度をとり続けてきた。そのため、日ロ両国の主張は、平行線をたどっている。</li> <li>・1991年、ゴルバチョフ大統領が、ソ連の最高指導者として初めて日本を訪れた。北方領土問題について、ソ連側は、「日ソ間には領土問題が存在し、これは北方四島の問題である」と認めた。それまで、「領土問題は解決済み」と主張し続けてきたソ連の態度を変えるものであった。1993年、日本を訪問したエリツィン大統領との日ロ両国による東京宣言においても、北方四島の帰属問題を解決した上で、平和条約を締結すべきであるとの合意にいたっている。</li> <li>・そして、2013年、安部首相はロシアのプーチン大統領との会談において、日ロ共同声明を発表し、停滞している北方領土交渉を再開し、早期解決に向けて努力することで合意した。しかし、2014年、ロシアがクリミアを併合したことにより、欧米諸国とともに日本もロシア制裁に加わることになり、北方領土交渉は延期された。</li> </ul> <p>(P152地図「北方領土をめぐる歴史的経緯」)</p>	<p>(P151本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国が不法占拠を続けている竹島や、中国が領有権を主張している尖閣諸島も、日本固有の領土である。平和的な解決が望まれている。</li> </ul> <p>(P151地図「日本の領域および排他的経済水域」)</p> <p>(P151写真「竹島(島根県隠岐郡隠岐の島町)」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の領土である竹島には、韓国がコンクリート製の国旗や見張台などを築いている。日本は国際司法裁判所への付託を数度提案したが、韓国は拒否している。日本は国際司法裁判所への付託を、韓国に数度提案したが、拒否された。</li> </ul>	<p>(P151地図、写真有)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国が不法占拠を続けている竹島や、中国が領有権を主張している尖閣諸島も、日本固有の領土である。平和的な解決が望まれている。</li> </ul> <p>(P151地図「日本の領域および排他的経済水域」)</p> <p>(P151写真「尖閣諸島」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の領土である尖閣諸島は、八重山諸島西表島の北160kmの小島群である。海洋調査の結果、石油埋蔵の可能性があり、1970年代に中国や台湾当局が領有権を主張し始めた。日本は「領土問題は存在しない」としている。</li> </ul>
第一	322	高等学校改訂版新現代社会	<p>(P98本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は第二次世界大戦で敗れた結果、サンフランシスコ平和条約にて千島列島及び南樺太を放棄した。しかし、千島列島の範囲めぐっては、日本とロシアの間で大きな対立がある(北方領土問題)。</li> </ul> <p>(P99本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は国後島・択捉島および歯舞群島・色丹島の北方領土は、1855年の日露親条約以来、歴史的に日本固有の領土であるので、放棄した千島列島には含まれないとしている。</li> <li>・一方、ロシア(旧ソ連)はヤルタ協定を通して北方領土を獲得し、歯舞諸島、色丹島の二島については、「日ソ間に平和条約が締結されたあとに現実に引き渡されるものとする」(1956年の日ソ共同宣言)という態度をとり続けてきた。日本は、ヤルタ協定は秘密協定であり、国際法上の効力をもたないとの立場をとっている。また、1993年の東京宣言をふまえて領土問題を解決し、平和条約を締結すべきであると主張している。両国の主張のへだたりは大きい。早期に平和条約を締結し、話し合いによる解決が望まれる。</li> </ul> <p>(P99地図「日本の領域および排他的経済水域」)</p> <p>(P99地図「北方領土をめぐる歴史的経緯」)</p>	<p>(P99本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国との間に竹島の帰属をめぐる問題がある。</li> </ul> <p>(P99地図「日本の領域および排他的経済水域」)</p> <p>(P99写真『竹島(島根県)』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本固有の領土である竹島には、不法占拠を続ける韓国によってコンクリート製の国旗のほか、灯台や見張台が築かれている。なお、日本は竹島について、国際司法裁判所への付託を数度提案したが、韓国は拒否している。</li> </ul>	<p>(P99本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国が尖閣諸島の領有を主張しているが、日本は「領土問題は存在しない」との立場をとっている。</li> </ul> <p>(P99地図『日本の領域および排他的経済水域』)</p> <p>(P99写真『尖閣諸島(沖縄県)』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本固有の領土である尖閣諸島付近の海底に、石油・天然ガス資源が埋蔵されていると推定される。そのため、1970年代に中国や台湾当局が領有するようになった。</li> </ul>

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	その他
山川	323	現代社会 改訂版	<p>(P152 側注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本と連合国側48カ国との間で結ばれた、第二次世界大戦の戦後処理を決めた講和条約。朝鮮・台湾・南樺太・千島の放棄、賠償の支払いなどが定められた。</li> </ul> <p>(P153 地図 『日本の領域』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北方領土 択捉島、国後島、歯舞群島、色丹島</li> <li>「北方領土をめぐる経緯」</li> <li>1855年の日露通好条約にもとづく国境線</li> <li>1875年の樺太・千島交換条約にもとづく国境線</li> <li>1905年のポーツマス条約にもとづく国境線</li> <li>1951年のサンフランシスコ平和条約にもとづく国境線</li> </ul> <p>(P153 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>しかし、日本の抱える外交課題も多く、ロシアとの間では、いまだ平和条約の締結に至っていない。それは、日本固有の領土である国後島・択捉島・歯舞群島・色丹島の4島からなる北方領土をめぐる問題が未解決であるためである。近年のロシアとの首脳会談では、平和条約の締結を約束しているものの、4島の返還については具体的にふれていない。</li> </ul>	<p>(P153 地図 『日本の領域』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>竹島</li> </ul> <p>(P153 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このほか、竹島の帰属をめぐる問題もある。竹島は日本固有の領土であるが、現在では韓国による実効支配がなされているため、日本は国際法にのっとって平和的に解決する努力を続けている。</li> </ul> <p>(P153 写真)</p> <p>「竹島」</p>	<p>(P153 地図 『日本の領域』)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尖閣諸島</li> </ul> <p>(P153 本文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、尖閣諸島については、中国や台湾当局が領有権を主張しているものの、尖閣諸島が日本固有の領土であることは歴史的にも国際法上も明らかであり、現に日本が有効に支配を続けている。</li> </ul> <p>(P153 側注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尖閣諸島をめぐる解決しなければならない領有権の問題はそもそも存在しない、というのが日本の立場である。</li> </ul> <p>(P153 写真)</p> <p>「尖閣諸島」</p>

※我が国の領域をめぐる問題として、ここでは「北方領土」及び「竹島」に関わる記述の概要について調査した。  
 「その他」については、「北方領土」及び「竹島」以外で、我が国の領域をめぐる問題の扱いについて、特記すべき事項があれば記載している。

「別紙2-3」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 北朝鮮による拉致問題の扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
教出	304	最新 現代社会	有 無	(P131 コラム)	第2編 私たちの生きる社会 第5章 国際社会の動向と日本の果たすべき役割 第1節 国際政治とその課題 4 戦後の国際政治	・冷戦を背景として、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)と大韓民国(韓国)との対立のなかで生じた問題に日本人拉致問題がある。1970年代から80年代にかけて、北朝鮮は情報収集などを行う工作員を韓国側へ送り込ませる活動をさかんに行っていた。北朝鮮は、工作員を日本人に見せかけるため、日本語や日本の文化などを工作員に教育する目的で、多数の日本人を拉致して連れ去った。2011年現在、日本政府は17名を拉致被害者として正式に認定しており、ほかにも被害者がいるとみられている。2002年に行われた日朝首脳会談で、北朝鮮は拉致の事実を認め、その後、一部の被害者は日本に帰国したが、いまだに不明な点も多い。
東書	313	現代社会	有 無	(P190本文)	第2部 現代の社会と人間 第5章 国際社会と人類の課題 6 日本の役割	・日朝間では首脳会談により関係改善が試みられたが、核開発問題や日本人の拉致問題の全容解明など解決すべき課題が多い。
実教	314	高校現代社会 新訂版	有 無	(P190写真) (P182本文)	第2編現代社会と人間としての在り方生き方 第5章 国際政治の動向 6 国際社会と日本	・日朝首脳会談によって帰国した拉致被害者たち(2002年) ・朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)とは、ようやく1991年に国交正常化交渉がはじまったものの、核開発問題や拉致問題などがあってその後進展していない。
実教	315	最新現代社会 新訂版	有 無	(P182本文)	現代の社会と人間 4 国際社会と人類の課題 第1章国際政治の動向 8 国際平和と日本の役割	・朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)とは、ようやく1991年にはじまった国交正常化交渉が、核開発問題や拉致問題などがあって進展していない。
清水	316	高等学校 現代社会 新訂版	有 無			
清水	317	高等学校 新現代社会 新訂版	有 無	(口絵②21世紀の世界と日本のあゆみ) (P201~202 本文)	近年の動き(年表)  第2編 現代の民主政治と法~政治~ 第6章 現代の国際社会と日本 5 日本外交と国際平和の実現	・(年表)2002年(平成14年)10月北朝鮮による日本人拉致事件の被害者5人が帰国する。 ・(注記)北朝鮮側は、過去に日本人を拉致したことを認め被害者の安否を伝えた。10月には被害者のうち5人が、2004年には被害者の家族8人が帰国したが、いまだに不明な点が多く、今後の解明が望まれる。 ・(写真)首脳会談後に記者会見する拉致被害者の家族 ・(本文)日本と国交が樹立されていない朝鮮民主主義人民共和国との関係では、拉致被害者の救出の取り組みも課題となっている。



「別紙2-3」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 北朝鮮による拉致問題の扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
帝国	318	高等学校 新現代社会	有 無	(P193本文) (P193写真)  (P195本文)	第Ⅱ部 現代社会のしくみと私たちの生き方 第4章 現代の国際政治と日本の役割 第2節 国際政治の動向と平和の追究 7 世界的な人権保障の動き  第Ⅱ部 現代社会のしくみと私たちの生き方 第4章 現代の国際政治と日本の役割 第2節 国際政治の動向と平和の追究 8 国際協力と日本の課題	・いまだに解決していない北朝鮮による日本人の拉致問題も深刻な人権侵害である。 ・「拉致被害者の帰国(2002年)」拉致被害者のうち5名が帰国し、その家族も2004年に日本に「帰国」した。しかし、帰国者以外にも多くの拉致被害者がおり、その多くは安否が不明である。14年に北朝鮮が拉致被害者を含む日本人行方不明者の再調査に合意したが、大きな進展はない。 ・北朝鮮との間の国交正常化も、日本人の拉致問題などによって難航している。
数研	319	改訂版 現代社会	有 無	(P192本文)  (P192脚注)	第2編 現代の政治と法 第3章 国際政治の動向と日本の果たすべき役割 第2節 国際政治の課題と日本の果たすべき役割	・北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)とは、核開発問題や拉致問題などの難問を抱えている。2002年に小泉首相が訪朝し、日朝ピョンヤン宣言を発表したものの、国交正常化にはいっていない。 ・「拉致問題」2002年の日朝ピョンヤン会談で、北朝鮮側は同国工作員が日本人を拉致した事実を認めて謝罪し、のちに3家族が帰国したものの、いぜんとして全容解明にはいっていない。
数研	320	改訂版 高等学校 現代社会	有 無	(P174コラム「北朝鮮との問題」)  (P174脚注)	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第4章 国際政治の動向と日本の役割 第2節 国際政治の課題と日本の役割	・朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)とは、体制の違いや拉致問題の解決をめぐる対立している。2002年に小泉首相が訪朝し、日朝ピョンヤン宣言を発表したが、国交正常化にはいっていない。 ・「拉致問題」2002年の日朝ピョンヤン会談で、北朝鮮側は同国工作員が日本人を拉致した事実を認めて謝罪し、のちに3家族が帰国したが、いぜんとして全容解明にはいっていない。
第一	321	高等学校 改訂版 現代社会	有 無	(P154本文)	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第4章 国際政治の動向と日本の役割 7 外交政策と日本の役割	2002年の日朝首脳会談で、北朝鮮は日本人拉致を公式に認めた、その後、2004年にかけて、拉致被害者とその家族の一部の帰国・来日の実現したが、不透明な部分が多く、課題を残している。
第一	322	高等学校 改訂版 新現代社会	有 無	(P100側注)	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第4章 国際政治の動向と日本の役割 8 日本の役割と私たちの生き方	日本人拉致被害者5人が、日本への帰国を果たしたが、その後、進展はしていない。
山川	323	現代社会 改訂版	有 無	(P152 年表)	第4章 社会の動向と日本 第1節 現代の国際政治 7 国際社会と日本	2002 日朝首脳初会談。北朝鮮、拉致事実認める

「別紙 2-4」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】 (現代社会)

発行者	教科書 番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
教出	304	最新 現代社会	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
東書	313	現代社会	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
実教	314	高校現代社会 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
実教	315	最新現代社会 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
清水	316	高等学校 現代社会 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
清水	317	高等学校 新現代社会 新訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	(口絵④)  (後見返し)	『21世紀の世界と日本の あゆみ』  年表	2012年 復興庁が発足。設置期間は10年間。  2012年 復興庁、原子力規制委員会設置。
帝国	318	高等学校 新現代社会	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
数研	319	改訂版 現代社会	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
数研	320	改訂版 高等学校 現代社会	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			

「別紙 2 - 4」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い】 (現代社会)

発行者	教科書 番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
第一	321	高等学校 改訂版 現代社会	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
第一	322	高等学校 改訂版 新現代社会	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	(P184、185コラム)	第3編 ともに生きる社 会をめざして ケーススタディ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災から復興への道のり</li> <li>・宮城県石巻市鮎川の歴史</li> <li>・東日本震災による津波で受けた壊滅的な被害と官民一体の復興</li> <li>・「クジラのまち」としての再生への課題</li> <li>・写真『おしかのれん街(宮城県石巻市鮎川)』</li> </ul>
山川	323	現代社会 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	(P76 図表)	第2章第4節2内閣	復興庁 内閣府中央防災会議

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
教出	304	最新 現代社会	① 無	巻頭 グラフ  P15 本文  P152 本文  P173 側注	資源・エネルギー問題  地球規模の環境問題  消費生活から考える環境問題  世代間倫理と「持続可能な発展」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のエネルギー別の消費割合の推移</li> <li>・おもな国の発電量と発電方式の割合</li> <li>・石油・石炭などの化石燃料を大量に燃やす生産活動や行き過ぎた森林伐採により、大気中の二酸化炭素の量が増加した。</li> <li>・福島第一原子力発電所事故後、電力の供給不安から節電が叫ばれるようになった。東日本大震災を通じて、電力も限りある資源であることを意識するようになった。</li> <li>・低炭素社会とは、省エネルギーや脱化石燃料をすすめ、二酸化炭素排出量の削減をはかる一方、さまざまな緑化政策などに二酸化炭素の吸収量を増やし、双方をバランスよく保っていくことで気候の安定化が実現された社会である</li> </ul>

「別紙2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	313	現代社会	有 無	<p>(P14本文、写真)</p> <p>(P15~17本文)</p> <p>(P17コラム『持続可能なエネルギー利用をどう実現するか』)</p> <p>(P17表)</p> <p>(P18, 19コラム『世界のエネルギー消費』『原子力発電の動向』『日本の再生可能エネルギーの取り組み』)</p>	<p>第1部 わたしたちの生きる社会 テーマ2 資源・エネルギー問題</p> <p>第1部 わたしたちの生きる社会 テーマ2 資源・エネルギー問題</p> <p>第1部 わたしたちの生きる社会 テーマ2 資源・エネルギー問題</p> <p>第1部 わたしたちの生きる社会 テーマ2 資源・エネルギー問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車のエネルギー源の多様化</li> <li>・エネルギーの効率利用の試み</li> <li>・燃料電池自動車と実験中の次世代ソーラー水素ステーション</li> <li>・「柏の葉スマートシティ」(千葉県柏市)の電力需給を管理する「スマートセンター」</li> <li>・停電時などに電気自動車の電力を非常用電源として用いる「防災ステーションボックス」</li> <li>・スマートグリッドのしくみ</li> </ul> <p>・資源には、石油や鉄鉱石などの鉱山資源、食料や森林などの生物資源、水資源などがある。熱源や動力になる石炭や石油といった化石燃料などを、エネルギー資源という。化石燃料や鉱物資源は、埋蔵量に限りがあるのでいずれは枯渇し(枯渇性資源)、産出地域にかたよりのある(資源の偏在性)ため、価格が高騰したり供給が不安定になったりすることがある。たとえば、政情の不安定な中東地域にかたよって埋蔵している石油は、国際紛争などの影響を受け、価格が大きく変動する。また、半導体の材料などに使われるレアメタルやレアアースなどの希少金属も偏在している。資源の輸出国のなかには、それらを外交手段として利用する国もある。</p> <p>日本は、資源・エネルギーへの輸入依存度が高く、安定的な供給体制の構築が必要であるため、輸入先の多様化、エネルギー源の多様化、備蓄の促進、市場価格安定化に向けた国際協力などを推進している。</p> <p>・資源確保の問題がなく、発電時に二酸化炭素を排出しないエネルギーとして、現在、太陽光、太陽熱、風力、波力、地熱、潮力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの開発と導入が急速に進められている。すでにドイツでは、最終エネルギー消費の11%を再生可能エネルギーが占めている。日本でも、それらの普及が求められているが、経済性や供給の安定性などの課題がある。現在、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が導入されているが、電力買い取りシステムの整備や補助金のあり方など検討すべきことは多い。</p> <p>・枯渇する心配がなく、二酸化炭素の排出が少ない再生可能エネルギーは持続可能なエネルギー利用に貢献するものとして期待されている。しかし、自然条件に左右されて発電量が安定しないなどの欠点もあるので、一定量の電気を安定的に供給する電源(ベース電源)にはなりにくいとの指摘がある。</p> <p>持続可能なエネルギー利用を実現するために、再生可能エネルギーの利用を促進していくには、どのような方法をとればよのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『おもな発電方法の特徴』</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもなエネルギー資源の分布と消費量</li> <li>・おもな国の一次エネルギー消費量</li> <li>・日本の原子力発電所とおもな原子力関連施設</li> <li>・チェルノブイリ原子力発電所(旧ソ連)</li> <li>・スリーマイル島原子力発電所(アメリカ)</li> <li>・木質バイオマス燃料製造のようすと周辺地域に熱を供給するボイラー</li> <li>・風力発電</li> <li>・福島再生可能エネルギー研究所</li> <li>・福島県飯館村の太陽光発電</li> <li>・福島沖の洋上風力発電</li> <li>・大規模太陽光(メガソーラー)発電</li> <li>・バイオマス発電</li> <li>・地熱発電</li> <li>・再生可能エネルギーによる発電量の推移</li> </ul>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
実教	314	高校現代社会 新訂版	有 無	<p>(表見返し『導入が進む再生可能エネルギー』)</p> <p>(P14~15本文)</p> <p>(P17~19本文)</p> <p>(P17グラフ)</p> <p>(P20本文)</p> <p>(P20グラフ)</p> <p>(P21本文)</p>	<p>第1編現代社会の諸課題</p> <p>第1章地球環境を考える</p> <p>2 地球環境問題への取り組み</p> <p>第1編現代社会の諸課題第1章地球環境を考える</p> <p>3 資源・エネルギー・人口問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 洋上風力発電所「かざみどり」</li> <li>・ 菜の花プロジェクト</li> <li>・ 木質バイオマスの活用</li> <li>・ 八丁原地熱発電所</li> <li>・ 郡山布引高原風力発電所</li> <li>・ 都留市小水力市民発電所</li> <li>・ 堺太陽光発電所</li> </ul> <p>・ CO2の排出削減のためには、化石燃料の使用を減らす必要がある。ドイツなどのEU諸国は、風力や太陽光をエネルギー源とする再生可能エネルギーへの転換を積極的に進めており、2030年までに再生可能エネルギーの比率を少なくとも27%まで引き上げることを政策目標としている。また、排出量取引や環境税(炭素税)などの経済的手段も取り入れ、化石燃料に依存した従来の産業構造や生活スタイルからの脱却をはかって成果を上げている。このような低炭素社会の実現はいまや世界全体の課題である。</p> <p>・ 日本はエネルギー資源や鉱物資源のほとんどを海外に依存しており、とくに石炭、石油、天然ガス、鉄鉱石、銅鉱石についてはほぼ100%を輸入している。これらの資源は産出地がかたよっているだけでなく埋蔵量も限られているため各国がその確保にしのぎを削っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『資源の埋蔵量と可採年数』</li> </ul> <p>・ 化石燃料や原子力発電の燃料であるウラン鉱はいずれなくなる有限な資源である。そのため、こんにちでは、安全・安心で持続可能な新しいエネルギーが求められている。</p> <p>太陽光発電や風力発電、地熱発電、小水力発電、波力・潮力発電、バイオエタノールをはじめとするバイオマス(生物資源)利用、太陽熱利用など、再生可能エネルギーの開発が、世界各国で積極的に進められている。これらは温室効果ガスや放射能を出さず環境への負荷が少ないクリーンエネルギーとして、その利用が期待されている。しかし、生産コストが高くまた天候や地形などの自然条件に左右されるといった課題もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『世界の再生可能エネルギーの発電電力量の推移』</li> </ul> <p>・ 家庭の太陽光発電などで得られた電力を一定期間、優遇価格で電力会社買い取ることを義務づける固定価格買取制度や、ITを活用して電力の使用と配送を効率的におこなうスマートグリッド(「賢い送電網」)などがある。</p>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
実教	315	最新現代社会 新訂版	有 無	<p>(P13本文)</p> <p>(P16本文、グラフ)</p> <p>(P18、19コラム『資源をめぐる動向』)</p> <p>(P20、21本文、写真、地図、グラフ)</p> <p>(P21コラム『スマートシティ』)</p> <p>(P22、23コラム『原子力と再生可能エネルギー』)</p>	<p>第1部わたしたちの生きる社会 第1章地球環境問題 3 地球環境問題への取り組み</p> <p>第1部わたしたちの生きる社会 第2章資源・エネルギー問題 1 限りある資源</p> <p>第1部わたしたちの生きる社会 第2章資源・エネルギー問題 1 限りある資源</p> <p>第1部わたしたちの生きる社会 第2章資源・エネルギー問題 2 エネルギー開発と利用 原子力と再生可能エネルギー</p> <p>第1部わたしたちの生きる社会 第2章資源・エネルギー問題 2 エネルギー開発と利用</p> <p>第1部わたしたちの生きる社会 第2章資源・エネルギー問題 2 エネルギー開発と利用 原子力と再生可能エネルギー</p>	<p>・二酸化炭素の排出量を低く抑えた「低炭素社会」を実現するためには、エネルギーの無駄をなくし、省エネルギー政策を強化することが求められる。さらに、太陽光発電や風力発電など二酸化炭素排出量の少ない再生可能エネルギーへの転換を進めていくことも重要である。</p> <p>・グラフ「エネルギー資源の可採年数」 ・私たちの生活は、さまざまな種類の資源を自然から取り出し、利用することによって成り立っている。資源には、鉱物資源、食料資源、水資源、森林資源、水産資源などがあり、石油や天然ガスのように電力源や動力源になるものはエネルギー資源（燃料資源）と呼ばれる。 しかし、これらの資源は、無限に存在しているわけではない。このように有限な資源は、石油や金属（鉱物）のように使い続けると枯渇してしまう枯渇性資源と、水や森林のように適切な管理をおこなえば再生できる再生可能資源とに大別される。ただし、再生可能な資源であっても、過剰な利用や不適切な管理を続けていけば、いずれは枯渇してしまうことになる。</p> <p>・石油は産出地がかたよっているため、過去多くの紛争の原因となってきたが、その構図は現在も変わらない。天然ガスもその供給をめぐる争いが生じているが、シェールガスの産出によって情勢が変化する可能性もある。こうしたなか、日本などの消費国では、資源の安定確保が課題となっている。</p> <p>・安全で持続可能なエネルギーとして、再生可能エネルギーの導入が、世界各国で急速に進んでいる。クリーンエネルギーとも呼ばれているが自然条件に左右されるため安定した発電量の確保が難しく、現状では化石燃料に比べて発電コストが高いなどの課題もある。ドイツは固定価格買取制度を実施するなど、普及に向けた政策を推進してきた。日本でも2011年に再生可能エネルギー特別措置法が成立し、2012年から固定価格買取制度がはじまり太陽光発電の導入量が急増している。</p> <p>・スマートシティ（コラム） ITなどの先端技術を用いてエネルギー利用率の効率化をはかり、二酸化炭素排出量を削減することで、都市の持続可能性と住環境の快適性を実現することをめざす環境配慮型都市、スマートシティが目玉されている。</p> <p>・おもな再生可能エネルギー（地熱発電、バイオマス発電、風力発電、太陽光発電） ・再生可能エネルギーの長所と短所 ・日本の再生可能エネルギー</p>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
清水	316	高等学校 現代社会 新訂版	有 無	(P12本文)  (P14本文)  (P14脚注)  (P14写真)  (P14写真)  (P14図)  (P15写真)	第1編 現代社会における諸問題 2 環境資源・エネルギー問題  第1編 現代社会における諸問題 2 環境資源・エネルギー問題  第1編 現代社会における諸問題 2 環境資源・エネルギー問題	<p>・私たち人間の生活は、地球からさまざまな資源を取り出し利用することで成り立っている。石油や石炭などの化石燃料はいつか取りつくしてしまうため、枯渇性資源とよばれている。森林資源も大量消費が続けば、急速に減少してしまう。人間の経済的欲求を満たすためには多くの資源が必要であるが、それらにはかぎりがある。これを資源の希少性という。かぎられた資源をいかに有効に配分し、社会全体を豊かにしていくかが課題である。</p> <p>・石油危機を契機に、有限な石油に代わる代替エネルギーの開発が進められてきた。原子力はその先頭を走る存在であったが、2011年の福島第一原子力発電所の事故をきっかけに段階的に撤退する国もあらわれた。そのようななか、バイオマス、太陽光、風力、地熱など、環境に負荷をあたえない再生可能エネルギーの普及が推進されている。しかし、発電にかかるコストが割高で、出力が不安定であるなど解決すべき課題も多い。</p> <p>・『バイオマス』間伐材や家畜の排せつ物、植物、食品廃棄物など生物由来の資源のこと。燃やしても植物が光合成で取り込んだ二酸化炭素を放出するだけなので、大気中の二酸化炭素の量はかわらない。</p> <p>・『海岸沿いの高台にならぶ風力発電の風車(北海道苫前町)』</p> <p>『駐車場の屋根に設置された太陽光発電用のソーラーパネル(埼玉県越谷市)』</p> <p>・『スマートグリッド』情報通信技術を使い、電力の需要に応じてそれぞれの発電所からの供給を効率よく調整し送電するシステム。</p> <p>・『八丁原地熱発電所(大分県、九重町)』活火山である九重連山の地熱で加熱された蒸気で、タービンをまわして発電する。二酸化炭素をほとんど排出せず、季節や天候に影響されないため、火山の多い日本にとっては有望な再生可能エネルギーである。しかし、日本の総発電量に占める割合は1%以下と開発は遅れている。</p>
清水	317	高等学校 新現代社会 新訂版	有 無	(P15~18本文、注記、グラフ)	序編 現代社会における諸課題 第2章 資源・エネルギー・人口・食料	<p>・私たちの生活を支えるエネルギー源は時代とともに変化し、1960年代には石炭に代わって石油がエネルギーの主役となった(エネルギー革命)。</p> <p>・原子力発電は、発電効率の高さや二酸化炭素を排出しないといった利点がある一方、安全性の問題、立地、廃炉、安全対策や事故の補償にかかわる費用負担などの課題がある。さらに、放射性物質の管理や処分方法、処分場建設をめぐる、困難な課題が数多くある。</p> <p>・さらに、太陽光や風力、地熱、潮汐、バイオマスなど、自然エネルギーの活用の推進がめざされている。これらは再生可能エネルギーであり、発電時に二酸化炭素や有害物質を生成しないクリーンエネルギーでもある。</p> <p>これらが普及するには、送配電網の整備や柔軟な運用、蓄電池の普及などを通して、出力の不安定さを克服したり、発電コストを低減化する必要がある。</p>



「別紙2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
帝国	318	高等学校 新現代社会	有 無	(P18本文)  (P18表) (P18グラフ) (P20コラム『日本の地熱発電』) (P20写真) (P20本文)  (P20図) (P22~23コラム『これからの日本の発電エネルギー～日本のエネルギー政策について考える』)	第I部 現代社会の諸課題とそのとらえ方 「人口・資源エネルギー」 2 エネルギー資源の問題  第I部 現代社会の諸課題とそのとらえ方 「人口・資源エネルギー」3 持続可能な社会に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料資源や水資源と同様に、私たちの生活に欠かせない資源としてエネルギー資源がある。エネルギー資源には、石炭や石油などのように何百万年も昔に生物が地中に埋もれて変化してできたと考えられている化石燃料、核分裂による原子力エネルギー、太陽光や風力、地熱、バイオマスといった繰り返し使うことのできる再生可能エネルギーの大きく3種類に分類できる。</li> <li>化石燃料には限りがあり、産出される地域もかたよりのある。また、その消費も先進国や新興国、産油国に集中する。再生可能エネルギーは繰り返し使うことができるが、地形や天候などに左右されやすく、現時点では大規模で安定した供給が難しい。非化石エネルギーである原子力は、燃料であるウランを長期間使用でき再利用可能であるが、一度事故が起これば大惨事となる。</li> <li>・表「エネルギー資源の種類」</li> <li>・グラフ「世界のエネルギー消費の推移と予測」</li> <li>・活火山の多い日本は、地熱資源に恵まれている。地熱発電は、太陽光発電や風力発電とは異なり、天候に左右されることが少ないため、比較的安定して電気をつくり出すことができる。そのため、日本にとって有望な再生可能エネルギーとなりうる。</li> <li>・写真「八丁原発所」</li> <li>・持続可能な社会のためには、社会全体で温室効果ガスの排出量を抑える低炭素社会を実現していく必要がある。その方法の一つとして、発電の際に排出する二酸化炭素の量を減らしていくことが考えられる。近年では発電時に二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーへの関心が高まり、とくに風力発電や太陽光発電などの新エネルギーによる発電施設が数多く建設されている。しかし、これらの発電は、自然の影響を強く受けるために利用できる地域が限られ、稼働も安定しないため、発電費用が割高になるという課題もある。日本は、国際的にみて技術力は高い水準にあるが、電力買い取り制度など長期的な政策が必ずしも十分ではなく、発電全体に占める割合は1%程度である。</li> <li>・図「おもな再生可能エネルギーの種類と立地」</li> <li>・私たちは、福島第一原子力発電所の事故を考え、これまでのエネルギー政策を見直していくことが求められている。エネルギー自給率が低い日本において、将来の世代が安定してエネルギーを使っていくためには、どのようなエネルギー政策をとっていくべきだろうか。</li> <li>・グラフ「おもな国のエネルギー自給率」</li> <li>・グラフ「日本の発電エネルギーの割合の変化」</li> <li>・グラフ「おもな国の発電エネルギーの割合」</li> <li>・グラフ「発電エネルギー別の二酸化炭素排出量と発電費用の試算」</li> <li>・写真「東日本大震災による事故直後の福島第一原子力発電所(2011年)」</li> <li>・表「四つの観点から考える各発電エネルギーの課題」</li> </ul>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
数研	319	改訂版 現代社会	有 無	(P18本文)  (P19コラム『一次エネルギー』)  (P19地図)  (P22本文)  (P23コラム『新エネルギーと革新的なエネルギー高度利用技術』) (P23表)  (P23脚注)	第1章 私たちの生きる社会 第2節 資源・エネルギー問題	<p>・他の先進国と同様、日本でも石油に大きく依存した経済成長が続いていた。しかし、第一次石油危機後は、石油の代替エネルギーとして天然ガスや原子力が導入され、省エネルギーの取り組みも推進された。その結果、2000年度には、一次エネルギーにおける石油の占める割合が5割を切るまでに低下した。しかし、天然ガスや石炭への依存は高まっており、二酸化炭素排出の主要起源である化石燃料の比率は、一次エネルギー全体の8割を超えている。</p> <p>・石油や天然ガス、石炭などの化石燃料や原子力発電の燃料としてのウランなど、自然から直接得られるエネルギー資源を一次エネルギーという。そのなかでも流体の石油の用途は広く、私たちの生活や社会に欠かすことができない。しかし、それは偏在しており、日本は大部分を中東地域からの輸入に依存している。天然ガスは、埋蔵量が世界的に豊富である。石油や石炭に比べて、燃焼時の二酸化炭素や窒素酸化物などの排出量が少なく、化石燃料のなかでは、クリーンなエネルギーといわれている。近年、技術革新により、低コストで採掘が可能になったもの(シェールガス)もある。一次エネルギーは、電力やガソリン、都市ガスなどの二次エネルギーに変換されたり、加工されたりして利用される。日本は、一次エネルギーの大部分を海外から輸入しており、自給率がきわめて低い。</p> <p>・「一次エネルギーの主な貿易と一人あたりの消費量」</p> <p>・低炭素社会構築のためには、二酸化炭素を出すことなく、しかも自然環境から絶えず得られる再生可能エネルギーの導入促進や新技術の研究開発が必要である。国際的にも再生可能エネルギーへの関心が高まっており、積極的に投資が行われ、国家や企業間で実用化競争が激化している。</p> <p>日本では、再生可能エネルギーのなかで、水力発電が主要な電源の一つとなっており、地熱発電も一定の電力を供給している。他方で、「新エネルギー」として、太陽光発電や太陽熱利用、風力発電、バイオマスエネルギーの利用などの普及が推進されている。しかし、これらは、自然条件に影響され、出力が不安定であったり、必要量を確保しにくかったりして、安定供給の面で課題がある。また、現在のところ、建設等のコストが高く、経済性の面でも課題がある。</p> <p>再生可能エネルギーは、地球環境に与える負荷の少ないクリーンなエネルギーであり、資源が枯渇せず、将来の世代も利用できる。また、輸入に頼らなくてもよい国産のエネルギーである。これらのエネルギーを効率よく利用する地域分散型のエネルギーシステムを開発・整備し、地域の活性化や持続可能なまちづくりを進めていくことが提唱されている。日本では、2012年に、太陽光、風力、バイオマスなど再生可能エネルギーの固定価格買取制度が発足した。また、環境やエネルギー分野での革新(グリーン・イノベーション)を積極的に進め、新たな産業の育成や雇用の創出をはかり、経済を成長させることが目指されている。なお、OECDは、資源の制約と環境への負荷の軽減をはかりながら経済成長も実現していくグリーン成長を提唱している。</p> <p>・「新エネルギーと革新的なエネルギー高度利用技術」                      [1]太陽光発電[2]風力発電[3]バイオマスエネルギー[4]革新的なエネルギー高度利用技術</p> <p>・革新的なエネルギー高度利用技術の例</p> <p>・「バイオ燃料」</p>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
数研	320	改訂版 高等学校 現代社会	有 無	(P16側注)  (P17本文)  (P17側注)  (P17図)  (P17写真)	第1編 私たちの生きる社会 第2章 資源・エネルギー問題	<p>・「エネルギー資源」石油や天然ガス、石炭などの化石燃料や原子力発電の燃料としてのウランなど、自然から直接得られるエネルギー資源を一次エネルギーという。日本は一次エネルギーの大部分を海外から輸入しており、自給率がきわめて低い。</p> <p>・持続可能な社会の構築のためには、二酸化炭素を出さず自然環境から絶えず得られる再生可能エネルギーの導入促進や、新技術の研究開発が必要不可欠である。現在、大規模な水力発電や地熱発電は、すでに一定割合の電力を供給しており、太陽光発電や太陽熱利用、風力発電、バイオマスエネルギーなどの普及が推進されている。これらの再生可能エネルギーは、出力が不安定であったり、必要量を確保しにくかったりして安定供給の面で課題がある。また、現在では、建設などのコストが高くかかるため、経済性の面でも課題がある。日本では、再生可能エネルギーの普及を促進させるために、固定価格買取制度などが導入されている。</p> <p>・「固定価格買取制度」電力会社に、太陽光、風力、バイオマスなど再生可能エネルギーによって発電した電力を、一定の期間・一定の価格で買い取ることを義務づけている。買取費用については、全国一律になるよう賦課金という形で、使用量に応じて電気利用者が負担する。</p> <p>・「新エネルギーの定義」</p> <p>・「風力発電と太陽光発電（沖縄県宮古島）」</p>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
第一	321	高等学校 改訂版 現代社会	有 無	(P19本文)  (P20本文)  (P21本文)    (P23脚注)  (P21グラフ)  (P21写真)	第1編 私たちの生きる社会  2 資源・エネルギー問題	<p>・20世紀に入ると、石炭に代わり、石油がエネルギー資源の中心となった。エネルギー源の転換は、産業や交通をはじめ、生活様式にも変化をもたらし、エネルギー革命とよばれた。</p> <p>・石炭・石油などの化石燃料や水力など、自然界から直接得られるエネルギーを一次エネルギーという。</p> <p>・太陽光・太陽熱・風力・地熱などの新エネルギーは、再生可能エネルギーであり、環境にやさしいエネルギーである。日本では、1997年に新エネルギー法が制定されて、新エネルギー開発への援助や利用推進がなされることとなった。この法律で定める新エネルギーには、太陽光や風力など再生可能な自然エネルギーだけでなく、廃棄物発電などのリサイクル型エネルギーやバイオマス・エネルギー、燃料電池など、新しい形態のエネルギーも含まれる。新エネルギーのエネルギー供給全体に占める割合は、ほんのわずかである。しかし、福島第一原子力発電所の事故後、新エネルギーは、原子力発電に依存しない社会を構築する際の重要なエネルギー源となる可能性があるため、その研究・開発が進められている。</p> <p>政府も、新エネルギーによる発電ビジネスを推進するため、再生可能エネルギー特別措置法を2011年に成立させた。これにより、再生可能エネルギーからつくった電気を政府が定めた単価で一定期間、電力会社が買い取ることを義務づけた。2012年には、再生可能エネルギー特別措置法に基づき、固定価格買取制度が始まった。なお、買いとりにかかる費用については、国民が電気使用量に応じて負担することになっている。</p> <p>・『固定価格買取制度』電力会社が、政府の定めた固定の価格で電気を買いとる制度。そのため、再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス）による発電の普及・拡大が期待されている。</p> <p>・『世界の発電量』</p> <p>・『風力発電（島根県江津市）』</p>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
第一	322	高等学校 改訂版 新現代社会	有 無	(P14本文)  (P15本文)  (P16本文)	第1編 私たちの生きる社会  2 資源・エネルギー問題と私たちの生活	<p>・20世紀に入ると、石炭に代わって石油や天然ガスがエネルギー資源の中心となった。このようなエネルギー源の転換は、産業や交通をはじめ、生活様式にも変化をもたらし、エネルギー革命とよばれた。</p> <p>・石炭・石油などの化石燃料や水力など、自然界から直接得られるエネルギーを一次エネルギーという。</p> <p>・資源の乏しい日本では、石油などの固形燃料に代わる新エネルギーとして、太陽光・太陽熱・風力・地熱など、再生可能なクリーンエネルギーの開発が進められてきた。新エネルギーの開発や利用推進のため、1997年には新エネルギー法が制定され、2012年には、再生可能エネルギーからつくった電気を電力会社が買い取ることを義務づける固定価格買取制度が始まった。さらに、ICT(情報通信技術)の活用によって既存の発電施設と新エネルギーの電源を制御し、電力の需要と供給をつねに最適化するスマートグリッドの構築も進められている。</p> <p>一方、おもに植物をもとにつくられるバイオマス・エネルギーや、水素と酸素の化学反応から生じるエネルギーによって電力を発生させる燃料電池などの研究開発もおこなわれている。しかし、これらの新エネルギーは、現状では出力が小さく不安定なうえ、開発・維持に費用がかかるという問題がある。今後、環境保全の面からも、再生可能なエネルギー資源の開発・利用に努めていく必要がある。</p>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
山川	323	現代社会 改訂版	有 無	<p>(P12 本文)</p> <p>(P12 側注)</p> <p>(P12 本文)</p>	<p>第1部 私たちの生きる社会 テーマ2 資源・エネルギー 1 今日の資源・エネルギー問題 ○資源の偏り</p> <p>○エネルギー革命と原発</p>	<p>資源・エネルギーの生産と消費には、地域によって大きな偏りがある。世界の総エネルギー消費の約70%は、全世界の人口の20%に過ぎない先進国の人びとによって占められており、鉱物資源については生産・輸出・埋蔵量とも発展途上国に集中している。とくに、石油の埋蔵量は、約60%が中東(西アジア)に偏在している。</p> <p>長い間、資源・エネルギーの開発と生産は、先進国の資本に支配されてきた。たとえば、石油は、欧米のメジャー(国際石油資本)が中東の産油国に大金利権をもち、世界の原油の生産から販売まで、石油市場を支配してきた。</p> <p>しかし、1973年の第4次中東戦争を契機に、産油国による石油輸出国機構(OPEC)が石油価格の決定に主導権をもつようになった。このような、自国の資源に対して国家主権の主張を強く打ち出そうとする動きを、資源ナショナリズムと呼ぶ。</p> <p>石油や石炭・天然ガスなど自然界から供給される原料、または水力や風力など自然現象から得られるものを一次エネルギーといい、一次エネルギーを変形・加工して使われるものを二次エネルギーという。</p> <p>1960年代に、日本は、エネルギーの中心をそれまでの石炭から、安くて利用しやすい石油へと転換(エネルギー革命)することで高い経済成長を成しとげた。</p> <p>その後、1970年代に起きた石油危機をきっかけとして、日本を含む主要国は、資源には限りがあること(有限性)、生産できる地域に偏りがあること(偏在性)を再認識し、石油備蓄体制の整備、石油の節約、石油にかわる代替エネルギーの開発、省エネルギーの推進などをすすめることとなった。</p> <p>鉱物資源に乏しい日本は、エネルギーを安定的に供給することが大きな課題であったため、原子力発電(原発)を推進した。原発は、燃料であるウランが比較的政情不安のない国に埋蔵されていることから、安定して供給を受けることが可能うえ、二酸化炭素や窒素酸化物を排出しないなどの利点があるとされる。</p> <p style="text-align: right;">次ページへ</p>

「別紙 2-5」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
山川	323	現代社会 改訂版		(P12 グラフ) (P14 本文) (P14 写真) (P14 グラフ)	第1部 私たちの生きる社会 テーマ2 資源・エネルギー 2 循環型社会の形成 ○新しいエネルギー	「世界のエネルギー消費量」「原油の輸入価格の推移」 社会に大きな影響をもたらす地球温暖化対策として、その原因でもある二酸化炭素の排出が少ない社会(低炭素社会)を構築することが、日本をはじめとする世界各国の課題である。 そのため、石油にかわるエネルギー源として、二酸化炭素を排出しない太陽熱や太陽光、地熱、風力、水力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入がすすめられている。これらは、環境汚染の心配が少ないためクリーンエネルギーともいわれる。しかし、発電コストが高く、天候に左右されやすいうえ、現在の技術では安定して大量供給をすることが困難であることから、日本の総発電量に占める再生可能エネルギーは、2013(平成25)年現在、わずか2%にとどまる。 再生可能エネルギーの導入と拡大をはかるため、2011(平成23)年に再生可能エネルギー特別措置法が制定され、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が導入された。これは、太陽光や風力等の再生可能エネルギーによって発電された電気を、法令で定められた価格で電力会社等が買い取るものであり、ドイツやスペインをはじめとする欧州各国ではすでに導入されている制度である。 また、ハイブリッドカーのような低公害車やコージェネレーション、燃料電池など、これまでよりも効率性の高い発電技術などが研究・開発され、導入が進められている。 「太陽光発電と風力発電」 「日本のエネルギー供給構成」

「別紙2-6」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
教出	304	最新 現代社会	有 無	後見返し 年表	現代の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1964年 第18回オリンピック大会(東京オリンピック)開催</li> <li>・1972年 第11回冬季オリンピック大会(札幌)開催</li> </ul>
東書	313	現代社会	有 無	(P130年表『日本経済の歩み (内閣府資料ほか)』)  (後見返し裏 年表)  (後見返し裏 写真)	第2部 現代の社会と人間 第4章 現代の経済と国民福祉 2 変化する日本経済  現代史年表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック景気</li> <li>・1964 10 オリンピック・東京大会開催</li> <li>・1972 2 冬季オリンピック札幌大会</li> <li>・オリンピック・東京大会の開会式(1964)</li> </ul>
実教	314	高校現代社会 新訂版	有 無	(P224年表『戦後日本経済の歩み (内閣府資料、総務省資料などによる)』)  (後見返し裏『戦後の景気循環図』)	第2編 現代社会の人間としてのあり方 第7章 経済活動のあり方と国民福祉 1 日本経済の歩みと近年の課題  戦後日本経済の歩み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック</li> <li>・オリンピック景気</li> <li>・オリンピック景気</li> </ul>
実教	315	最新現代社会 新訂版	有 無	(P134年表『戦後日本経済のあゆみ』)	第2部 現代の社会と人間 3 現代の経済社会と国民生活 第2章 日本経済の特質と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢の超特急」東海道新幹線 東京オリンピックに合わせて開通した。1964年</li> </ul>



「別紙2-6」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
清水	316	高等学校 現代社会 新訂版	有 無	(P119年表『日本の実質経済率とおもなできごと』)  (後見返し『第二次世界大戦後のおもなできごと』)	第2編 現代社会のあり方と私たちの生き方 第4章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 現代の経済社会  第二次世界大戦後のおもなできごと	・オリンピック景気  ・1964 東京オリンピック大会開催
清水	317	高等学校 新現代社会 新訂版	有 無	巻頭・年表・写真  巻頭 21世紀の世界と日本のあゆみ 写真 本文 P275 本文	21世紀の世界と日本のあゆみ  第3編 第3章 国際経済と日本 国際経済の現状と日本	・(年表)東京が2020年の夏季五輪開催地に出される。 ・(注記)20年五輪は東京のほかマドリード(スペイン)、イスタンブール(トルコ)の3都市が立候補し、東京の安定した財政や治安の良さなどが評価された。 ・南米ブラジルは、2014年にはサッカー・ワールドカップ、2016年には夏季オリンピックなど巨額な費用がかかるスポーツイベントを開催することとなり、世界の注目を集める一方、国内では貧困状況の改善が進んでいないことに不満の声があがっている。
帝国	318	高等学校 新現代社会	有 無	(見返し)  (P122コラム「オリンピックの経済効果」)  (P125グラフ「日本のGDPの変化(内閣府資料)」)  (P138年表)  (後見返し『第二次世界大戦後のおもなできごと』)	世界のさまざまな動き  第Ⅱ部 現代社会のしくみと私たちの生き方 第1章 現代の社会と自己実現 第3章 現代の経済と国民の福祉 第1節 市場経済のしくみ  第二次世界大戦後のおもなできごと	・「オリンピック開催都市リオデジャネイロ(2013年 ブラジル)2016年に開催される南アメリカ大陸初の夏季オリンピックに向けて、インフラの整備が進められている。 ・2020年に東京で56年ぶりに夏季オリンピック・パラリンピックの開催が決まった。オリンピックの開催は経済にどのような影響をもたらすのだろうか。 ・オリンピックの準備期間には競技場や宿泊施設などの建設が進み、新たな需要や雇用を生むので、景気がよくなる傾向にある。また開催中は多くの外国人が訪れるので、多くの利益がもたらされる。しかし、閉会後はその反動で景気が後退する傾向にある。 ・東京オリンピック  ・オリンピック景気  ・1964 5 東京オリンピック開催 ・写真「東京オリンピック開催」

「別紙2-6」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
数研	319	改訂版 現代社会	有 無	(見返し) (P238本文) (P244年表「日本経済のあゆみ」)	戦後の日本と世界の動き  第3編 現代の経済 第2章 日本経済の進展と国民生活 第1節 日本経済の進展と変化	・1964 10 東京オリンピック開催 ・写真「1964東京オリンピック」  ・神武景気、岩戸景気、オリンピック景気、いざなぎ景気を含む1955～1973年までの間、実質経済成長率の年平均が10%を超える高度経済成長を実現した。  ・1964東京オリンピック オリンピック景気(62.10～64.10)
数研	320	改訂版 高等学校現代社会	有 無	(見返し) (P136年表「日本経済のあゆみ」) (P137本文)	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第3章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第3節 日本経済の発展と変化	・1964 10 東京オリンピック開催  ・1964東京オリンピック オリンピック景気(62.10～64.10)  ・神武景気、岩戸景気、オリンピック景気、いざなぎ景気を含む1955～1973年までの間、実質経済成長率の年平均が10%を超える高度経済成長を実現した。
第一	321	高等学校 改訂版現代社会	有 無			
第一	322	高等学校 改訂版新現代社会	有 無	(後見返し裏) (P127本文)	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第5章 現代の経済社会と私たちの生活 10 戦後日本経済のあゆみ(1)	・1964 10 東京オリンピック開催  ・この時期には、神武景気、岩戸景気、オリンピック景気、いざなぎ景気と呼ばれる好景気が訪れ、日本経済は実質経済成長率の年平均が10%をこえる高度経済成長を実現した。
山川	323	現代社会 改訂版	有 無	(P118 写真) (P119 本文) (裏表紙見返し)	第3章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第2節 経済の発展と国民生活 1 戦後日本の経済発展(1)  第二次世界大戦後のあゆみ	「名神高速道路上を走る東海道新幹線」(岐阜県羽島市) 戦後日本の復興を示したオリンピック東京大会の開幕(1964年)にあわせて、最初的高速道路である名神高速道路と「夢の超特急」東海道新幹線が開通した。  日本はオリンピック東京大会の開催の1964年に経済協力開発機構(OECD)に加盟し、先進工業国の仲間入りを果たした。  1960年代 1964 10. 東海道新幹線開通。東京オリンピック開催

「別紙3」【(2) 構成上の工夫】(現代社会)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
教出	304	最新 現代社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラムの他に、注記で重要用語の説明が行われている。</li> <li>・ほぼ毎ページ、下段に図版、写真、資料等が掲載されている。</li> <li>・注記以外に、各項目ごとに1か所、「KeyWord」として重要な用語三つが示されている。</li> <li>・「分析ポイント」として、問い掛けや対立する二つの考え方が示され、考察の道筋を示している。</li> </ul>
東書	313	現代社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の説明とともに、注記で説明が加えられている。</li> <li>・コラムにより内容を補足し、理解を促している。</li> <li>・生徒に身近なテーマを設定することで、関心を持たせる工夫をしている。</li> <li>・写真を多用することで、視覚的な理解を促している。</li> </ul>
実教	314	高校現代社会 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章による説明が中心である。</li> <li>・「SEMINAR」というページを設け、時事問題等を説明している。</li> <li>・注記は最小限に抑えられ、本文で説明を行っている。</li> <li>・各章の導入として「INTRODUCTION」が置かれ、学習の動機付けが行われている。</li> </ul>
実教	315	最新現代社会 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ全ページに写真や図が掲載されている。</li> <li>・「時事コラム」が20か所に配置され時事的な内容に触れている。</li> <li>・「現代社会ナビ」が設けられ実生活や社会で役立つ項目が13か所ある。</li> <li>・「なるほどQ&amp;A」が置かれ、様々な疑問に対する回答の形式で解説が行われている。</li> </ul>
清水	316	高等学校 現代社会 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図版、写真、注記がほぼ全ページに配置されている。</li> <li>・本文に関連する内容が、コラムとして扱われている。</li> <li>・注記がつけられている用語が同一ページ内に収められている。</li> <li>・「課題学習」、「close up」などの特集ページで課題探求の道筋が記されている。</li> </ul>
清水	317	高等学校 新現代社会 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注記で時事的なトピックにも触れている。</li> <li>・「Question」を各所に配置し問題提起をしている。</li> <li>・各章に図版や写真、コラム、資料などを掲載している。</li> <li>・「考えよう」で時事問題に関する探究ができるように記している。</li> </ul>
帝国	318	高等学校 新現代社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1部では様々な立場から考察できるよう立場ごとの声がまとめられている。</li> <li>・各ページの3分の1程度が写真や図表で構成している。</li> <li>・特設ページで特定の分野の内容を深く掘り下げる工夫をしている。</li> <li>・本文の内容を注記やキーワードで補っている。</li> </ul>
数研	319	改訂版 現代社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラム等で内容の補足説明を行っている。</li> <li>・政治経済分野だけでなく、倫理分野についても詳細な情報がある。</li> <li>・注記で詳細な内容を扱っている。</li> <li>・学習の導入として問いが添えられている。</li> </ul>
数研	320	改訂版 高等学校 現代社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やグラフ、年表などを多用することで本文の内容を補足している。</li> <li>・写真を多用することで、視覚的な理解を促している。</li> <li>・コラムにて身近な内容を扱うことで関心を持たせる工夫をしている。</li> <li>・各ページの注記で用語の解説を行っている。</li> </ul>
第一	321	高等学校 改訂版 現代社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集に補足的な学習事項が記載されている。</li> <li>・写真や表を利用することで、視覚的な理解を促す工夫をしている。</li> <li>・コラムでは発展的な内容を扱われており、より深い理解を得ることができる。</li> <li>・本文中での説明が中心であり、注記の数が抑えられている。</li> </ul>
第一	322	高等学校 改訂版 新現代社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラムにてテーマを設定し、対立する二つの立場を比較し、意見を持たせる工夫をしている。</li> <li>・一つのテーマについて、原則見開き1ページでまとめられており、内容を把握しやすい。</li> <li>・写真や統計データ、イラストなどがふんだんに使用されており、視覚的な理解がしやすい。</li> <li>・コラムにて補足的な情報を扱うことで、理解を促すだけでなく、関心が持てるよう工夫をしている。</li> </ul>
山川	323	現代社会 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラムで補足的な内容を扱い、Approachで高校生の興味・関心を引くようなトピックを扱っている。</li> <li>・写真・グラフ・図表などの視覚的資料が比較的大きく、見やすいものとなっている。</li> <li>・側注は語句の解説だけでなく本文の内容の解説としても付けられている。</li> <li>・学習項目ごとに学習への導入のための短文の問い等が置かれ、章末に「課題追究」を置いて、主体的な探究を促している。</li> </ul>